



日時 令和2年9月3日(木)

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

1 中学年分科会 目指す児童像

「人・自然・社会とのつながりの中で課題を見付け、自分なりに解決しようとする子」

2 単元名 「用水について考えよう」(全21時間)

3 単元の目標

- ・自分たちの身近に流れる用水について関心をもち、実際に見たり、資料で調べたりする活動を通して、特徴やよさについて考えることができる。
- ・現在、地域に残っている用水の存在意義を考え、用水を身近に感じ、用水を大切にしている地域のよさについて考えることができる。
- ・用水について調べ、考えたことを地域に紹介することができる。

4 単元におけるESDの視点

持続可能な社会づくりの構成概念	ESDの視点に立った学習で重視する能力・態度
Ⅱ 相互性 自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合い、それらの中では水資源やエネルギーが移動・循環していること	2 未来像を予測して計画を立てる力 変わりつつある地域の中で、用水とどのように付き合っていくかを考えていく力
V 連携性 持続可能な社会は、町に住む人々や町で働く人が状況や相互関係などに応じて順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること	3 多面的・総合的に考える力 利便性、自然環境などの複数の捉え方を通して考えていく力
	4 コミュニケーションを行う力 グループの中でこれからの用水について自分の考えや思いを伝え、友達の考えも尊重し、積極的にコミュニケーションをとりながら、用水との関わり方についてまとめることができる力
	7 進んで参加する態度 身の回りに存在する環境にどう向き合うかを意識して、進んで課題解決に向けて行動する態度

5 単元の評価規準

学習過程	評価規準		
	知識・技能 【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度 【学】
課題設定	ア 自分たちが暮らしている地域には用水があり、今でも多く残っていることを理解している。 イ 用水の定義を考え、まとめている。	ア 身近な用水に関心を持ち、用水と川の違いに気付き、用水の定義を考えている。 イ 用水について知りたいことを明確にすることができる。 ウ 身近に流れている用水との、これからの関わり方について考えている。 (未来像を予想して計画を立てる力)	ア 自分で課題を設定し、探究活動に進んで取り組もうとしている。 イ 用水を見付け、その様子取材しようとしている。 (進んで参加する態度)
情報収集	ウ 用水は何のために作られたのかを理解している。 エ 定義に沿って、身近に流れている用水を見付けている。	エ 用水の定義に照らし合わせて、用水探しをしている。 (進んで参加する態度)	ウ 進んで調査活動に取り組んでいる。 (進んで参加する態度)
整理・分析	オ 田んぼは少なくなりつつあるが、用水は残されていることを理解している。 (相互性)	オ 用水と人々との関わりについて考えたことを交流し、用水の存在意義を捉えることができる。 (多面的、総合的に考える力)	
行動・検証			エ 自分の課題を解決するための行動計画をたてている。 オ 自分の課題を解決するために、進んで行動している。 (進んで参加する態度)

まとめ・表現	カ 見付けたそれぞれの用水が地域の中でつながって流れていることを理解している。	カ 地域（学区域）の地図を活用して、各自が見付けてきた用水の流れの情報を基に、一つの流れとして用水を捉えることができる。 （多面的、総合的に考える力）	カ 友達が調べてきたことと自分が調べてきたことを照らし合わせながら、協働して学び合っている。 （コミュニケーションを行う力）
	キ 用水が地域の人々の生活に深く関わっていることを理解している。 （連携性）	キ 自分たちの行動を検証している。	キ 友達の意見を取り入れながら、自分の考えをまとめている。 （コミュニケーションを行う力）
	ク 用水が存在する本来の目的である田んぼが住宅に変容しつつあるが、残されている用水の意義について理解している。（連携性）	ク 用水とともに地域で生きていくことの大切さを表現している。	

6 単元について

（1）単元観

日野用水は100年の歴史をもち、古くから日野の土地を潤してきた。八小の学区内にも新井地区、落川地区に浅川や程久保川から引いてきた用水があり、身近な場所に用水が多数残っている。児童にとっては身近な遊び場となっているところもあれば、入ってはいけな場所となっているところもあり、身近ではあるが、用水の本来の存在価値を知らずにいる児童が多い。用水のよさとともに、生活の中に用水がある地域のよさを感じ、用水を大切にしようとする意識をもたせたいと考え、本単元を設定した。

（2）教材観

用水は自然にできたものではなく、生きていくために人々が造りあげたものであることを確かめるために、用水と同じく学区域内を流れる程久保川と用水の違いから用水の定義を考え、その定義を基に用水探しを行い、用水の流れを点から線につなげていく活動を行った。

身近に流れる用水には、今でも田んぼに水を通すために流れているものもあれば、住宅街の中を流れているものもある。今では住宅街の中を流れている用水の方が多く存在するが、田んぼに水を通す役目は終わっていても、用水は残されて水は流れている意味を考えることによって、用水が流れている地域のよさに気付くと共に地域に対する愛着につながると考えた。

7 SDGsとの関連

〔関連目標⑮〕 【陸の豊かさを守ろう】

- ・用水が水田を作り、その水田が人々の生活を支え、大切な食糧を確保し、様々な生き物の命を育んでいる。水の大切さを考えることは15、1につながっている。

〔関連目標⑪〕 【住み続けられるまちづくりを】

- ・用水は人々や生き物の生命を育むだけではなく、時には水害を防ぎ、また住みよい環境づくりにもつながりうることを知り、考えることは11、1につながっている。

8 他教科等との関連

E S Dカレンダー参照

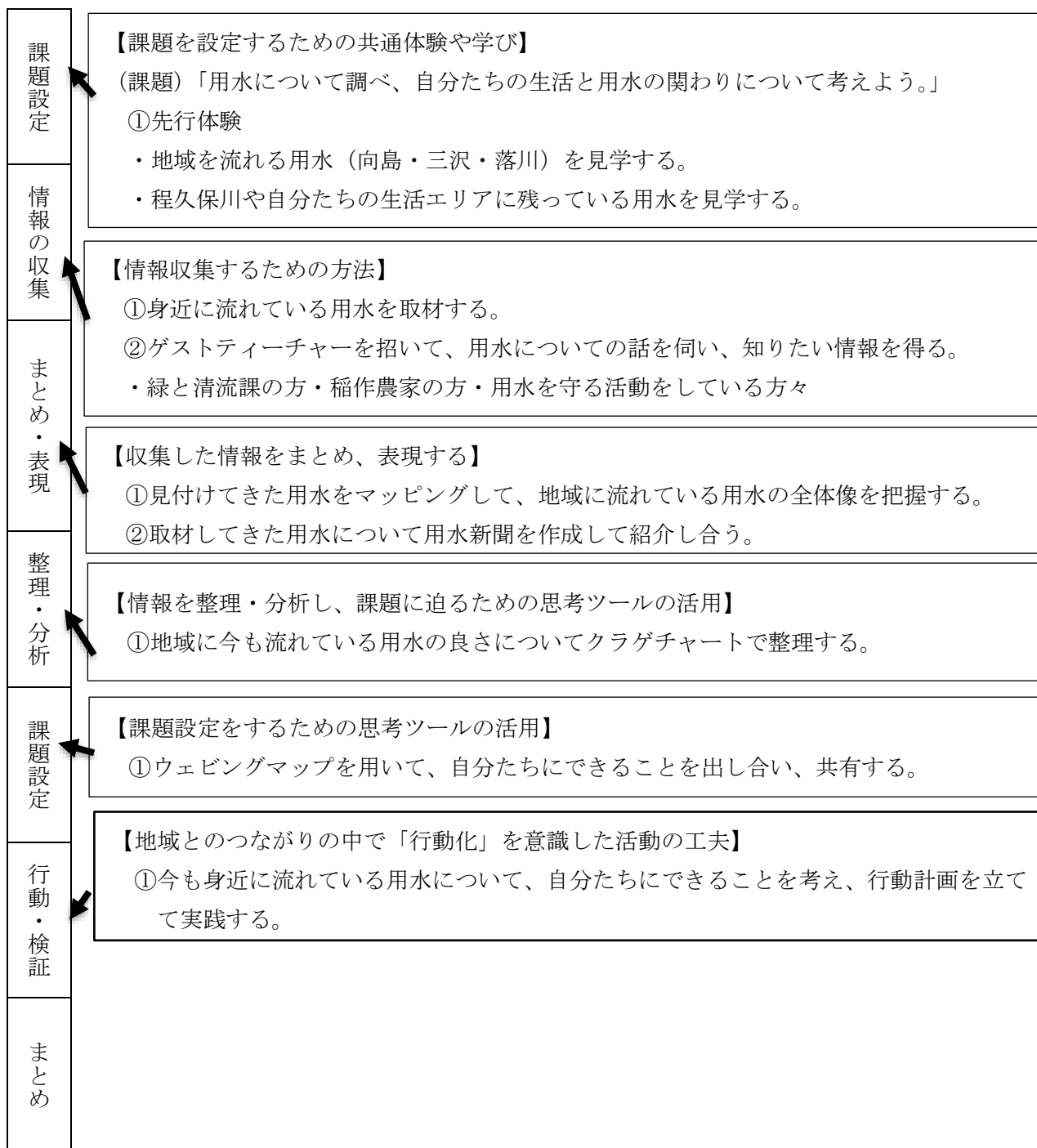
9 児童の実態

4年生では「水」をテーマに学習を進めている。自分たちが毎日使用している水道水は川から取り入れ、その水は山の森林（水源林）から流れていることを学習している。しかし、用水は川から取り入れていることを知らない児童が多い。用水について、「用水は田んぼのためにある」と知識としては知っている児童がいるが、家の周りを流れている用水に関しては、ほとんど意識がなく、興味をもっていない児童が多かった。今自分たちが住んでいるところは、昔は田んぼであったところが多くあり、家の近くを流れているのはそのための用水であることを知る。そして、今残っている用水に興味をもって、この地域を好きになってほしいと思う。

10 研究主題に迫るための手だて

【研究の重点】

- (1) 課題を設定するための共通体験の充実
- (2) 情報を整理・分析し、問題を解決するための思考ツールの活用



11 単元の指導・評価計画

	時	ねらい	○主な学習内容、学習活動	◇評価規準（評価方法）
課題設定	1	・地域を流れている川に目を向け、川の水を通して自分たちと水とのつながりに関心をもつことができる。	○共通体験として「程久保川の源流を目指して」の映像を見て川及び水について考える。	◇地域に流れている身近な川に目をむけ、身近な存在としての川と水について関心をもっている。【学ア】 (発言・ワークシート)
	2	・用水について話し合うことを通して、用水について関心をもつことができる。	○用水について各自がもっているイメージを出し合う。	◇自分たちが暮らしている地域には用水があり、今でも多く残っていることを理解している。【知ア】 (発言・ワークシート)
	3	・地域を流れている用水があることを通して、用水を身近に感じることができる。	○共通体験として「用水を見てみよう」の映像を見て、用水の特徴や用水のまわりの環境を知る。	◇自分たちが暮らしている地域には用水があり、今でも多く残っていることを理解している。【知ア】 (発言・ワークシート)
	4	・川と用水との違いを比べながら用水の定義を考えることができる。	○共通体験として「川と用水」の映像を見て、意見を出し合う。 ○用水の定義を考える。	◇用水の定義を考え、まとめている。【知イ】 (発言・ワークシート) ◇身近な用水に関心をもち、用水と川の違いに気付き、用水の定義を考えている。 【思ア】 (発言・ワークシート) ◇用水について知りたいことを明確にしている。 【思イ】 (発言・ワークシート)
情報収集	5	・用水と田んぼとのつながりを通して、用水は何のために作られたのかをたしかめることができる。	○共通体験として「田んぼと用水」の映像を見て、用水が何のために作られたかを考える。	◇用水は何のために作られたのかを理解している。 【知ウ】 (発言・ワークシート)

	(6・7・8)	・身近に流れている用水を探し、調べることができる。 (用水たんけん)	○家の近くに流れている用水や登校途中に見付けた用水を取材する。	◇定義に沿って、身近に流れている用水を見付けている。【知エ】 (ワークシート) ◇用水の定義に照らし合わせて、用水探しをしている。【思エ】(ワークシート) ◇進んで調査活動に取り組んでいる。【学ウ】 (ワークシート)
まとめ・表現	9・10・11	・用水たんけんを通して調べてきたことを紹介することができる。	○用水報告会で、取材してきた用水の場所や様子を報告し合う。 ○用水新聞を作り紹介する。 ○用水報告会や用水新聞から、現在の用水はどうなっているかについて考える。	◇見付けたそれぞれの用水が地域の中でつながって流れていることを理解している。【知カ】 (発言・ワークシート・新聞) ◇地域(学区域)の地図を活用して各自が見付けてきた用水の流れの情報を基に、一つの流れとして用水を捉えることができる。【思カ】(発言・ワークシート・新聞) ◇友達が調べてきたことと自分が調べてきたことを照らし合わせながら、協働して学び合っている。【学カ】 (発言・ワークシート・新聞)
整理・分析	12 本時	・取材してきたそれぞれの用水のよさや問題点について気付くことができる。 ・現在の用水の使われ方について考えることができる。	○現在のいくつかの用水を見て、それぞれの良さや気になることを出し合う。	◇用水と人々との関わりについて調べたことを交流し、用水の存在意義を捉えることができる。【思オ】 (発言・ワークシート) ◇田んぼは少なくなりつつあるが、用水は残されていることを理解している。【知オ】 (発言・ワークシート)

課題設定	13	・身近に流れている用水との、これからの関わり方について考えることができる。	○現在の用水の良さや気になることから、これからの用水について考える。	◇身近に流れている用水との、これからのかかわり方について考えている。【思ウ】（発言・ワークシート） ◇自分で課題を設定し、探究活動に進んで取り組もうとしている。【学ア】（発言・ワークシート） ◇地域に目を向けて発信しようとしている。【学イ】（発言・ワークシート）
行動・検証	14 ・ 15	・かかわり方について地域への働き掛けの方法を考えることができる。 ・地域に働き掛けるための行動計画をたてることができる。	○これからの用水に向けて、自分たちにできることを考える。	◇自分の課題を解決するための行動計画をたてている。【学エ】（発言・ワークシート）
	16 17 18	・行動計画に沿って実践を行うことができる。	○これからの用水のために、考えたことを実践する。	◇自分の課題を解決するために、進んで行動している。【学オ】（発言・ワークシート）
まとめ・表現	19	・これからの用水について考えてきたこと、行動したことの成果をまとめることができる。	○行動したことを振り返り、成果や課題をまとめる。	◇自分たちの行動を効果や達成状況などから検証している。【思キ】（発言・ワークシート） ◇用水が地域の人々の生活に深く関わっていることを理解している。【知キ】（発言・ワークシート）

	20 ・ 21	・用水についての学習を通し、考えたこと、実践したことをまとめ、発表することができる。	○報告会を開いてまとめたことを紹介する。	◇用水が存在する本来の目的である田んぼが住宅に変容しつつあるが、残されている用水の意義について理解している。【知のク】 (発言・ワークシート) ◇用水とともに地域で生きていくことの大切さを表現している。【思のク】 (発言・ワークシート) ◇友達の意見を取り入れながら、自分の考えをまとめている。【学のキ】 (発言・ワークシート)
--	---------------	---	-----------------------------	---

12 本時の指導（12 時／21 時間）

（１）本時の目標

- ・用水とそのまわりの様子に目を向け、現在の用水のよさに気付くことができる。

（２）展開

時	○主な学習内容 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点、配慮事項 ◇評価規準（評価方法）
導入	○前時までの振り返りをする。 ○用水を撮影した数枚の写真を見て、気が付いたことを発表する。 ・田んぼに水を流している。 ・花を育てていてきれいになっている。 ・遊び場になっている。 ・道路の下にかくれている。 ・水が流れていない。	◆用水たんけんや用水コンクールでとりくんできたことを思い出させる。 ◆教師が撮影してきた写真を提示する。
展開	○本時のめあてを確認する。 用水とそのまわりの様子から、今流れている用水のよさや気になることを見付けよう。 ○用水とそのまわりの様子について、気が付いたこと（よさ）をグループで相談する。 （４人グループ 計７グループ） ○他グループのチャートを見合う。 ○今、地域にながれている用水の「よさ」や「気になったこと」をワークシートにまとめる。	◆思考ツール（イソギンチャート）に「よさ」を書かせる。併せて「気になること」があれば、付け加えて書かせる。 ◆今でも田んぼのために使われている用水があるが、ほとんどが住宅街や道路の下を流れている。そして本来の役目を果たしていない用水の中にも手入れをされている用水やまったく何もされていない用水があることに気付かせる。
まとめ	○学んだことについて意見を交換する。	◇用水と人々との関わりについて考えたことを交流し、用水の存在意義を捉えることができる。（発言・ワークシート）

13 本時における想定される児童の姿と支援

	想定される児童の姿	支援
A	・他のグループと交流し、用水をより良いものにしようと意識する。	用水を活用しているところに着目させ、自分は用水に対してできることはないかを考えさせ、助言する。
B	・他のグループと交流し、現在の用水田んぼがないところでも用水のよさ（工夫して生活に生かしている）に気付く。	用水や用水の周辺をきれいにしているところや、田んぼ以外に、公園や休憩できるスペースに利用しているものはないか助言する。
C	・他のグループと交流し、用水のよさや気になることに気付く。	自分で考えたことと同じものがあるか、また自分と違うものはどんなことかに注目させる。

14 指導の工夫と児童の様子と今後の課題

（１）課題設定【課題を設定するための共通体験や学び】

※今年度は新型コロナウイルス感染症蔓延の状況下のため、当初予定していた用水の様子を見学する先行体験を行うことはできなかった。

- 学校横に流れている程久保川の源流を視聴した。
- そして、浅川に合流するまでの様子を知ることができた。そして社会科で学んだ東京水源林の学習と合わせて、自分たちの生活と水との関わりに関心をもつことができた。



（２）情報の収集

- 地域を流れる３個の用水についての映像を視聴した。自分たちの生活エリアに残っている用水を再確認し、身近に感じる事ができた。そして、調査観察に意欲をもつことができた。



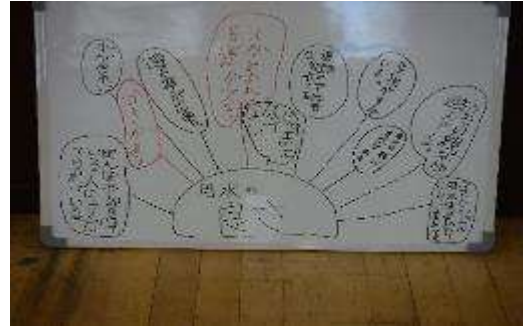
（３）まとめ・表現

- 児童それぞれが調査観察してきた用水の位置を地域の地図に記入した。それにより、地域を流れる用水の全体像を知ることができた。多くの用水があることを知るとともに、点として見ていた用水が線としてつながり、あらためて自分たちが住む地域には用水が張り巡らされていることを感じる事ができた。
- 風景の一部として見ていた用水に着目し、調査観察したことにより、用水を身近に感じ、愛着をもつことができ、用水新聞にまとめることができた。
- それぞれが作った用水新聞の内容を紹介し合うことにより、自分の生活エリアだけでなく地域に流れる様々な用水に関心をもつことができた。



(4) 整理・分析

○観察調査して感じた、用水の「良さ」や「気になること」を思考ツール（イソギンチャート）で整理した。それにより、用水の「気になること」をどうすれば用水の「良さ」にすることができるかという視点をもつことができた。



(5) 新たな課題設定

○「こんな用水であってほしい」という思いが子供たちに生まれ、「自分たちにできるこ

とはないか」と新たな課題を設定した。

○これからの用水に向けて、自分たちにできることはなにかを思考ツール（クラゲチャート）を使って考え、整理して行動計画を立てることができた。



(6) 行動・検証

○日野市役所「緑と清流課」の方をゲストティーチャーに招いて、自分たちが立てた行動計画についての疑問や心配について伺った。それにより計画を見直し、行動に自信をもつことができた。



(7) その他

○用水コンクール

夏季休業中の課題として用水をテーマとした五部門（フォト・スケッチ・短歌・俳句・作文）で作品を募集した。作品作りを通してより身近に感じ、用水のある地域の美しさをあらためて認識することができた。



○今回、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下のために、課題設定のために計画していた用水見学の代わりに映像資料（「川と用水」、「田んぼと用水」、「用水たんけん」など）を創作して用水に対する興味をもたせた。

15 今後の課題

- ・学習していく中で、秋になると水が流れていない用水があることに気付いた。四季を通して用水の学習に取り組むことにより、四季折々の用水の良さや変化を感じることができると考え、通年通して取り組むことが望ましいと考える。
- ・実際に用水と深く関わっている農家の方や用水を守る活動をしている方との交流を定期的に取り入れていきたい。



日時 令和2年7月31日(金)

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

1 高学年分科会 目指す児童像

「人・自然・社会とのつながりの中で自ら課題を見付け、解決できる子」

2 単元名 「わたしたちの環境を守ろう」(全23時間)

3 単元の目標

- ・地球上で起きている環境問題から身近な環境問題まで関心をもって、その影響、原因、対策等を調べ、情報を関連付けたり、整理したり、分析したりすることを通して、よりよい環境をつくるために大切なことを理解することができる。
- ・環境問題を自分事として捉え、社会や地域の一員として対策を考え、取り組むことを通して、持続可能な社会の実現に向けて問題を解決していくことができる。

4 単元におけるE S Dの視点

持続可能な社会づくりの構成概念	E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度
II 相互性 ・環境問題は様々なことが関わり合っていて起きていることやいろいろなところでその問題が関わり合っていることを理解すること V 連携性 ・環境問題を解決するために様々な人々が協力・連携して取り組んでいることを知り、自身でも社会や地域の一員として協力・連携して行動していこうとする思いを抱くこと VI 責任性 ・多くの企業や団体が「つくる責任」のもと、環境を守るための取組を行っていることを知り、「つかう責任」のもと自分たちにも環境を守るため	1 批判的に考える力 ・環境問題の影響・原因・対策等について調べ、様々な情報を整理・分析して、環境問題の本質について理解し、その対策について思慮深く考えることができる力 3 多面的・総合的に考える力 ・様々な人の立場から環境問題を見てみることで、環境問題にはいろいろな面があることを理解する力 ・環境問題の原因等のつながりを見付けることを通して環境問題の全体像を総合的に捉える力 4 コミュニケーションを行う力 ・グループの中で環境問題についての自分の考えや思いを伝え、友達の考えも尊重し、積極的にコミュニケーションをとりながら、その解決方法をまとめることができる力

に行動しなくてはいけない責任があることを自覚すること	7 進んで参加する態度 ・地域社会の一員としての責任を自覚し、環境問題を解決するために、その方法を考えようとする態度 ・グループの中で自分の役割を理解して主体的に話し合いに参加する態度
----------------------------	--

5 評価規準

学習過程	評価規準		
	知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【学】
課題設定	ア 世界の中に様々な環境問題があることを理解している。 (相互性)	ア 思考ツール「ウェビングマップ」を用いて自分で課題を設定している。 イ 学習の見通しをもちながら自分なりに学習計画を立てている。 (多面的、総合的に考える力)	ア 自分で課題を設定し、探究活動に進んで取り組もうとしている。 (進んで参加する態度) イ 自分にできることかどうか整理し、学習計画を立てようとしている。
情報収集	イ 環境問題について、手段を選択しながら情報を収集している。	ウ 自分で調べたことと関連させながら、企業の取組を聞き、理解している。	ウ 進んで調査活動に取り組んでいる。 (進んで参加する態度)
整理・分析	ウ 環境問題を解決するために、様々な機関が取り組んでいることを理解する。 (連携性)	エ 集めた情報を考えて整理しながらポスターにまとめる。 (多面的・総合的に考える力) オ 思考ツール「ステップチャート」を活用して、自分たちでできることを考えている。 (多面的・総合的に考える力)	エ 自分と違う意見や考えの良さを生かしながら、協働して学び合っている。 (コミュニケーションを行う力)
まとめ・表現	エ 環境問題の原因は人間の生活によるものだということを理解し、自分たちが解決していかななくてはならないことに気付いている。	カ 環境問題について、要点をまとめて分かりやすく表現している。	オ 調べたことを分かりやすく友達に伝える。友達の発表を聞いて、調べたこと以外の環境問題について考える。 (批判的に考える力) カ 友達の意見を取り入れながら、自分の考えをまとめている。 (コミュニケーションを行う力)

行動・検証		キ 自分たちの行動の効果や達成状況などから検証している。 (批判的に考える力)	キ 主体的に話し合いに参加し、問題の解決策を考えている。 (進んで参加する態度) ク 自分の課題を解決するために、進んで行動している。 (進んで参加する態度)
-------	--	--	--

6 単元について

(1) 単元観

本単元では、SDGsの11～14の目標と関連させて環境という側面から持続可能な社会の創造を目指す資質・能力の育成を目指していく。単元の導入では児童が環境問題を自分事として考えられるように現在起きている深刻な環境問題を、共通体験として提示する。そして単元を貫く大きな学習課題を設定できるようにする。その上で児童が身の回りの環境問題について想起し、自分の課題を設定して調べ活動をして、調べたことをクラスの中で発表するという活動を行う。互いに発表し、対話的な学習を展開することで、新たな気づきや疑問が出てくることが予想される。更に調べたことを整理・分析して、環境問題を解決していくために必要なことを明らかにしていく。そして調べ学習の第2段階として、環境問題を解決するための様々な取組について調べていく。そこでは、日野市役所の方や企業の方などに協力していただきながら現在も様々な取組が行われていることを知ることができるようにする。そして最後の学習課題として自分にできることを考え実践していく。自分にできることを考え、実践していくことを通して、環境問題が自分たちの生活と関わっていて、行動することが世界や地域で起きている環境問題を解決するために大切なことであることを捉えさせていく。そして、行動したことについて発表し、検証しながらこれからの自身の生き方を考えることをこの単元のゴールとする。

(2) 教材観

地球温暖化をはじめとする環境問題は深刻な問題となっている。その深刻な問題を解決するために世界中で様々な取組が行われている。国連の定めたSDGsの17の目標と共に環境問題への取組が語られることも多い。そのような世界や日本国内の動きを、児童も少なからず知っていて、自分の生活も少しずつ影響を受けていることも感じている。ただ、まだまだ自分とは遠いところにある問題であり、なんとかしなければならないという思いはもってはいない。しかし、深刻さを増す環境問題を解決するためには一人一人の意識が変わり、行動が変わることが大切である。児童にとってこの学習が意識や考えを変え、行動を始める一つの機会になってほしいと思っている。また、自分たちが未来の社会や地域を担う存在だということに改めて気づき自身の生き方を考えてほしいと思っている。

7 SDGs との関連

〔関連目標⑪〕 【住み続けられるまちづくりを】

- ・自分たちが地域を担う存在であることに気付かせ、よりよい地域社会を築くために自分たちにできることを考えさせるようにすることはターゲット 11.6 につながっている。

〔関連目標⑫〕 【つくる責任 つかう責任】

- ・環境を守るために企業や自治体など様々なところで取組が行われていることを知り、改めて「つくる責任やつかう責任」について理解を深め、自分たちにできることを考えていくことはターゲット 12.8 につながっている。

〔関連目標⑬〕 【気候変動に具体的な対策を】

- ・地球上で起きている気候変動について調べ、その影響・原因や取組について調べたことを整理・分析をして自分たちで具体的に行動することはターゲット 13.3 につながっている。

〔関連目標⑭〕 【海の豊かさを守ろう】

- ・海洋プラスチックの問題など、海の豊かさを脅かす問題について、その影響や原因、有効な対策について調べることはターゲット 14.1 につながっている。

8 他教科等との関連

E S D カレンダー参照

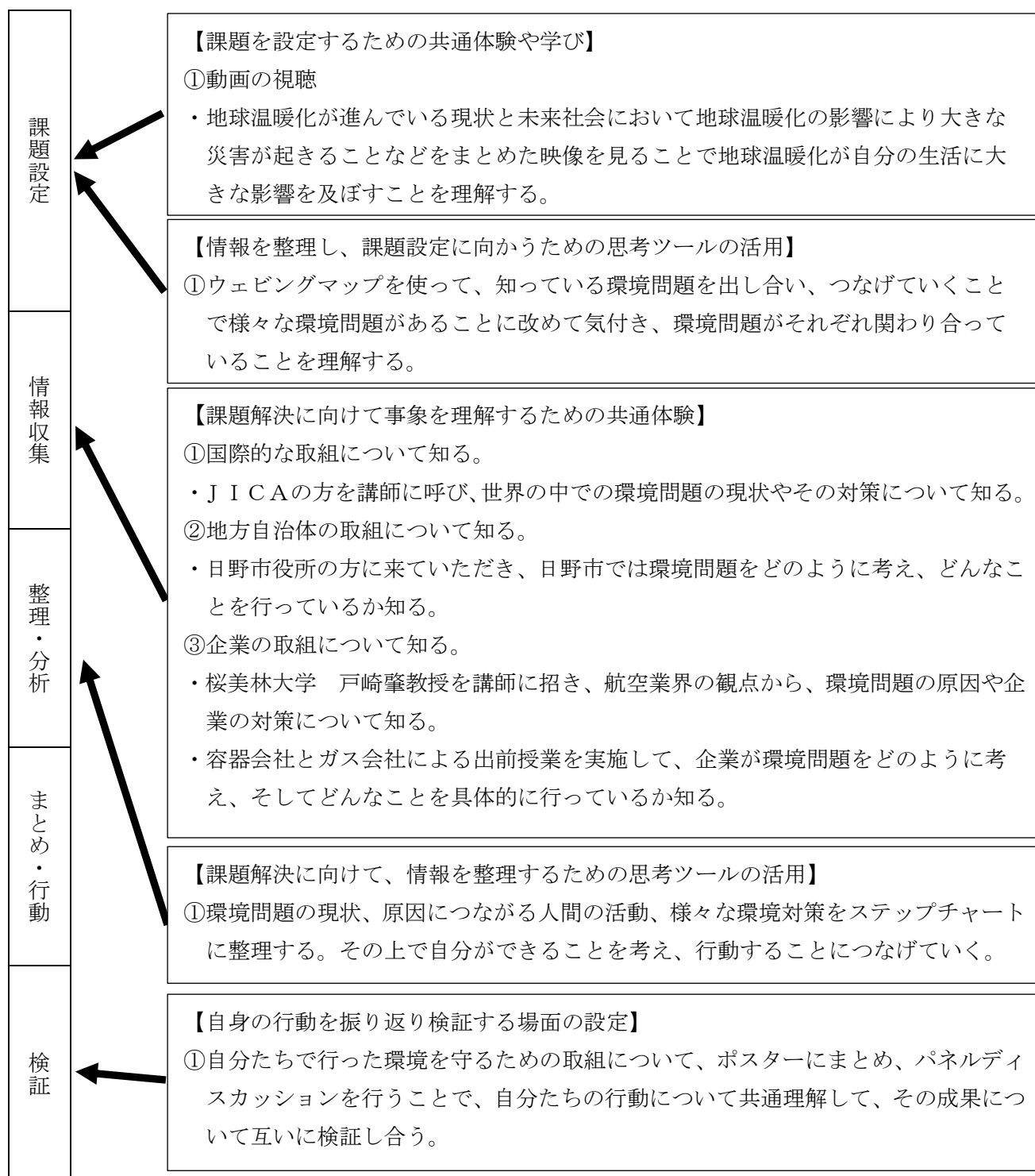
9 児童の実態

本学級の児童は、5年生になったことを機に、高学年としてこれまでより広い視点をもって生活していこうとする意欲が高まっている。これまで自分本位だった考え方の児童にも、少しずつ変化が見えてきている。また、委員会活動が始まったことで、より「学校全体のこと」を考えて行動しようとする姿勢や意欲が見られる。そのため、7月初旬に行ったSDGsについての学習でも、日本のことや世界のことを考えたいという思いをもつ児童が多かった。昨年度も学習した内容があったが、より発展させて考えようとしている様子であった。また、世界の問題を「自分の身近に置き換えるとどうなるか」、「自分たちが大人になった時にどうなるか」など、様々な視点で物事を考えられるようになってきている。

しかし、問題意識はあるものの環境問題についての知識はあまりなく、本単元の導入で今知っている環境問題について聞いた際に、「分からない」、「知らない」と答える児童も多くいた。また、多少の知識はあっても、具体的な世界の現状や環境問題の原因などはほとんどの児童が知らなかった。更に、解決するために具体的にどのようなことをしていけばよいのか、世界の問題のために自分たちにできることは何か、などということにはまだ考えが至っていない様子であった。この学習では、SDGsを生かしながら問題解決型授業を進め、児童自身が自分の力で考えながら問題を解決し、行動化にまでつなげていけるように進めていきたい。

10 研究主題に迫るための手だて

- (1) 課題を設定するための共通体験の充実
- (2) 情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用



11 単元の指導・評価計画

	時	ねらい	○主な学習内容、学習活動	◇評価規準（評価方法）
課題設定	1	・環境の実態を知り、問題意識をもつことができる。	○共通体験として地球温暖化のVTRを視聴して、世界の中で深刻な問題になっている環境問題への意識を高める。 ○地球温暖化が進んでいることを知る。 ○どんな環境問題があるか、ウェビングマップを用いて意見を出し合い、たくさんの環境問題が起きていることや環境問題がつながっていることを理解する。	◇世界には様々な環境問題があることを理解している。【知ア】 （発言・ワークシート） ◇思考ツール「ウェビングマップ」を用いて自分で課題を設定している。 【思ア】 （ワークシート）
	2	・環境問題について調べたいことを決めて、学習計画を立てることができる。	○自分の課題を決めて、学習計画を立てる。	◇学習の見通しをもちながら自分なりに学習計画を立てている。【思イ】 （発言・ワークシート）
環境問題について調べよう				
情報収集	3 4	・環境問題について調べることができる。	○本や資料、インタビューを活用し、現在の状況と問題点、原因について調べる。	◇環境問題について、手段を選択しながら情報を収集している。【知イ】 （観察・ワークシート）
整理・分析	5 6	・環境問題について調べたことをまとめることができる。	○自分で決めた環境問題の現状、原因、感想をポスターにまとめる。	◇集めた情報を考えて整理しながらポスターにまとめる。【思エ】 （観察・作品）

まとめ・行動	7	・調べたことを友達に分 かりやすく伝えること ができる。	○調べた内容が違うメンバ ーでグループをつくり、調べ たことを発表し合う。 ○ポスターをデータ化しタブ レットを使って他グループ の友達のポスターも見られ るようにすることで、クラ スの中で上がった環境問題 の現状と原因について出来 る限り理解できるようにす る。	◇調べたことを分かりやす く友達に伝える。友達の 発表を聞いて、調べたこ と以外の環境問題につい て考える。【学オ】 (観察・ワークシート)
	8 本時	・環境問題について整理 し、現状と原因を理解す る。	○各自がどのような環境問題 について調べたか確認し、環 境問題の現状と原因を分類 整理することで、解決策を考 えることにつなげていく。	◇環境問題の原因は人間の 生活によるものだという ことを理解し、自分たち が解決していかななくては ならないことに気付いて いる。【知エ】 (発言・ワークシート)
課題設定	9	・これまで調べてきたこと を基に、新たな課題を設定する。	○1学期の学習を想起し、解 決策を考えるための学習計 画を立てる。	◇自分で課題を設定し、探 究活動に進んで取り組も うとしている。 【学ア】 (発言・ワークシート)
	環境を守るための取組について考えよう			
情報収集	10	・世界の中で行われている 環境を守るための取組 について理解すること ができる。	○JICAの方から話をし てもらいそれぞれの国の環境 を守るための取組について 知る。	◇自分で調べたことと関連 させながら話を聞き、理 解を深めたり、新しいこ とに気付いたりしてい る。【思ウ】 (観察・ワークシート)
	11	・日野市で行われている 環境を守るための取組 について理解すること ができる。	○日野市環境保全課の方から 話をしてもらい日野市の環 境問題を守るための取組に ついて知る。	◇自分で調べたことと関連 させながら話を聞き、理 解を深めたり、新しいこ とに気付いたりしてい る。【思ウ】 (観察・ワークシート)

	12 13 14	・企業で行われている環境を守るための取組について理解することができる。	○桜美林大学・戸崎先生や企業の方から話をしてもらい企業では環境を守るためにどんな取組をしているか知る。 ・航空会社 ・容器会社 ・ガス会社	◇自分で調べたことと関連させながら話を聞き、理解を深めたり、新しいことに気付いたりしている。【思ウ】 (観察・ワークシート)
整理・分析	15	・これまでの学習を通して環境を守るための取組について学んだことを話し合いながらまとめるとともに自分で取組たいことを考えることができる。	○これまでの学習で学んだことを話し合いながらまとめていく。	◇環境問題を解決するために、様々な機関が取り組んでいることを理解する。【知ウ】 (発言・ワークシート) ◇自分と違う意見や考えの良さを生かしながら、協働して学び合っている。【学エ】 (発言・ワークシート)
情報収集	16	・資料（地球教室）を使って環境への取組について調べ、自分で取組たいことを考えることができる。	○問題を解決するために自分がやりたい行動を決める。	◇進んで調査活動に取り組んでいる。【学ウ】 (観察・ワークシート)
課題設定	17	・環境を守るためにどんなことができるか考えることができる。	○同じテーマのグループでこれまでの学習を振り返りながらステップチャートを使って環境問題の現状、原因（原因につながる人間の活動）、対策、自分たちにできること、の順番で考え、整理していく。	◇思考ツール「ステップチャート」を活用して、自分たちでできることを考えている。【思オ】 (観察・ワークシート)
	18	・自分たちの行動計画を立てることができる。	○グループで、自分たちで実現可能かどうかという点から自分たちで、できることを整理して、行動計画を立てる。	◇自分にできることかどうか整理し、学習計画を立てようとしている。【学イ】 (観察・ワークシート)

わたしたちの環境を守るために行動しよう

まとめ・行動	19 20	・行動計画に沿って準備や実践を行うことができる。	○自分で立てた計画に基づいて、環境を守るための行動を行う。	◇主体的に話し合いに参加し、問題の解決策を考えている。【学キ】 （観察・ワークシート） ◇自分の課題を解決するために、進んで行動している。【学ク】 （観察・ワークシート）
まとめ・表現	21 22	・環境問題について考えてきたこと、行動したこと、どんな成果ができたかまとめることができる。	○自分たちでどんな行動をしたか、ポスターなどにまとめる。	◇環境問題について、要点をまとめて分かりやすく表現している。 【思カ】 （作品） ◇友達の意見を取り入れながら、自分の考えをまとめている。【学カ】 （観察・作品）
検証	23	・これまでの活動を通してまとめたことを報告し、討論することを通して、「わたしたちの環境を守ること」について視野を広げ、改めて自分が今できることを考えることができる。	○前時にまとめたポスターを基に報告会を行う。	◇主体的に話し合いに参加し、問題の解決策を考えている。【思キ】 （観察・ワークシート）

12 本時の指導（8時/23 時間）

（１） 本時の目標

- ・環境問題について整理する活動を通して現状を理解し、原因について考え、問題を解決したいという思いを抱けるようにする。

（２） 本時の展開

時	○主な学習内容 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点、配慮事項 ◇評価規準（評価方法）
導入	○これまでの学習を振り返る。 ○本時のめあてを確認する。	◆これまでの学習を、掲示物などを使って振り返る。
	環境問題について調べたことをまとめよう。	
展開	○前時の報告会の友達の発表を思い出し、どのような環境問題があったか出し合う。 ・地球温暖化 ・ごみ問題 ・砂漠化 ・海洋汚染 ・オゾン層破壊 ・森林破壊 ・生態系破壊 ・水質汚染 ・酸性雨 ○報告会で知ったことを入れながらウェビングマップを作成する。 ○全体で共有する。 ○環境問題の現状と原因を整理し、気が付いたことを書いて発表する。 ・地球温暖化は、僕たちが石油を使うことで進んでいく。 ・私たちが紙を無駄にすることで、たくさんの森林が失われている。 ・環境問題は人間に害があると思っていたが、原因を作っているのは人間だった。 ○地球上には、たくさんの環境問題があることや、その原因が人間によるものだということをまとめる。	◆黒板にそれぞれの環境問題の写真を提示しながら意見を集約する。 ◆前の時間に友達が発表していたことを基に、環境問題の現状と原因を入れて作成させる。 ◆児童の意見を基に黒板にウェビングマップを作成していきながら、環境問題の現状と原因を整理していく。 ◇世界にはたくさんの環境問題があり、その原因が人間の生活によるものだということを理解し、自分たちが解決していかなければならないことに気付いている。（発言・ワークシート） ◆第1時で作成したウェビングマップと本時で作成したものを比較し、学習を通して多くの環境問題について知ることができたことに気付かせる。 ◆自分たちの生活が環境問題の原因になっていること、自分たちが行動することで世界を変えていけるということに触れ、2学期以降の学習につなげられるようにする。
まとめ	○学んだことについて意見を交換する。 ・自分たちの生活が環境に影響を与えていることが分かった。 ・どうすれば環境問題を解決していくことができるか考えていきたい。	◆今後の学習の見通しをもたせ、自分たちにできることはすぐにでも実行していくよう意欲を高める。

13 本時における想定される児童の姿と支援

	想定される児童の姿	支援
A	環境問題の原因は人間の生活によるものだということやそれぞれの環境問題にはつながりがあることを理解し、自分たちの行動を変えることによって問題を解決していきたいという思いをワークシートに書いたり発言したりしている。	環境問題と自分たちの生活に因果関係があることを確かめ、問題を解決していくためには自分たちの行動をどのように変えていく必要があるか考えさせる。
B	環境問題の原因は人間の生活によるものだということを理解し、自分たちが解決していかななくてはならないことに気付いてワークシートに書いたり発言したりしている。	第1時でまとめたウェビングマップと今回のウェビングマップを見比べさせ、違いを見付けられるように声を掛ける。
C	環境問題の原因は人間の生活によるものだということを知り、気付いたことをワークシートに書いている。	全体でまとめたウェビングマップの原因にあたる部分に赤で色を付け、人間の生活が関わっているということと一緒に確かめる。

14 学習過程における指導の工夫と児童の変容

(1) 課題設定【課題設定に向けて事象に出合うための共通体験の充実】

○地球温暖化に関する動画「2100年の天気予報（環境省）」を視聴し、このままの状況が続くことで多くの問題が起こり、自分たちの生活にも影響が出てくるということを知った。地球温暖化が遠い国での問題ではなく、自分たちに直接関わる問題だという実感を持ち、児童が「解決していかなければならない問題だ」という認識をもつことができた。

○地球温暖化以外に8点の環境問題についての資料を提示した。児童は環境問題の他にも世界の中にはたくさんの環境問題があり、様々な場所でその影響が見られていることや、自分たちの想像以上に大きな問題となっていることを学んだ。そのことにより、環境問題を解決していくためには、地球温暖化だけでなく様々な問題について知っていく必要があるという思いが強まった。



(2) 情報収集【協働的な学びにつなげるための、外部人材や地域人材の活用】

○JICAの方に世界の中での環境問題の現状について話していただいた。各国で実際にどのような影響が出ているのかを知り、より問題を解決していきたいという思いを強めることができた。また、世界各国では環境問題についてどのような対策がなされているかを知ることで、自分たちにはどのようなことができるのか考えるためのヒントとすることができた。



○日野市環境保全課と東京ガスの方にも環境を守るための取組について話していただいた。日野市内でトモロコシを原料としたフォークの使用を推奨していることや家庭で水素電池を使った発電がされていることなどを教えていただき、より身近でなされている環境を守るための取組について知った。JICA（世界）→環境保全課（市内）→東京ガス（各家庭）というように出前授業の順番を設定することで、世界から自分たちの身近なところへと徐々に視点が移り、より自分事として考えることができた。

○情報収集のまとめとして、桜美林大学戸崎肇教授に世界や日本での環境を守るための取組について話していただいた。これまでに伺ってきた取組や環境問題を結び付けて考えられたことで、今後自分たちにできる行動を決めていくための指針となった。



(3) 整理・分析【情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用】

○ウェビングマップを使って知っている環境問題やその影響を出し合うことで、世界にはたくさんの問題があるということを整理することができた。また、関わりのある環境問題を線でつなげて表していくことで、一つ一つの環境問題が独立しているのではなく、それぞれが関わり合っていることに気付くことができた。



○3学期に、同じテーマのグループでこれまでの学習を振り返りながらステップチャートを使って環境問題の現状、原因（原因につながる人間の活動）、対策、自分たちにできること、の順番で考え、整理していく。

(4) まとめ・行動【地域とのつながりの中で「行動化」を意識した活動の工夫】

○自分が調べた環境問題の「現状」「問題点」「原因」についてポスターにまとめた。全員のポスターをデータ化し、タブレットで互いのポスターを見合うことで、自分が調べた以外にもたくさんの環境問題の現状や原因を知ることができ、より環境問題への問題意識を強めることができた。



○環境問題についての調べ学習とまとめが終わった後に、環境問題の原因と現状を整理することで、解決策の見通しをもち、自分たちの行動によって環境問題を解決していけるという思いをもつことができた。

○3学期に自分で立てた行動計画に基づいて、家庭や学校で環境を守るための行動を行う。行動した後に、環境問題について考えてきたことや自分たちがした行動、その行動によってどのような成果があったかをポスターにまとめる。

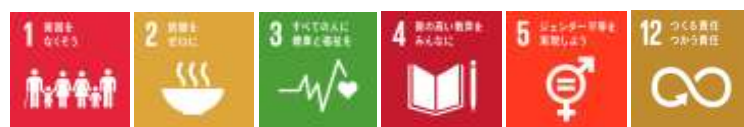


(5) 検証【自身の行動を振り返り検証する場面の設定】

○行動化を終え、自分たちのした行動とその成果をポスターにまとめた後、そのポスターを基に学級で報告会を行う。自分たちの行動を振り返り、その行動が有効であったか互いに検証し合う場を設定する。

15 今後の課題

- ・今回は、前半の学習での課題設定とまとめで同じ思考ツール「ウェビングマップ」を使用した。同じ思考ツールを使うことで違いを明確にしたいというねらいであったが、本時のねらいに合わせて他の思考ツールを使っても良かった。活動のねらいに応じて使用する思考ツールを工夫していきたい。
- ・今後の学習で自分たちが行動していかなければならないという意識を強めるために、環境問題の原因を「人間の生活」として位置付けていったが、違った面から見ると他の要因も考えられた。物事には多様な見方があるということを、学習の中で児童に伝えていくことで、多様性を養っていきたい。
- ・児童が自分事として環境問題を受け止め、行動に移していくために、教師の発問や言葉掛けや学習過程について、今後も改善を続けていきたい。



日時 令和2年7月14日(水)

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

1 高学年分科会 目指す児童像

「人・自然・社会とのつながりの中で自ら課題を見付け、解決できる子」

2 単元名 「よりよい未来を目指して」(全23時間)

3 単元の目標

- ・世界中で起きている問題(紛争・難民・貧困など)に関心を持ち、それらを調べたり、その問題の解決につながることを自分なりに行動したりすることを通して、世界には様々な問題があり、それらを解決するために大切なことは何かを理解し、持続可能な視点からよりよい未来について考えるとともに、自らの生活や生き方に生かすことができるようにする。

4 単元におけるE S Dの視点

持続可能な社会づくりの構成概念	E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度
I 多様性 世界の中には様々な国があり、様々な暮らし方をしていることを理解している。	1 批判的に考える力 世界の問題の影響・原因・対策等について調べ、様々な情報を整理・分析して、問題の本質について理解し、その対策について思慮深く考えることができる力
II 相互性 世界の問題は様々なことが関わり合って起きていることを理解すること	3 多面的・総合的に考える力 ・様々な人の立場から世界の問題をみてみることで、いろいろな面があることを理解する力 ・世界の問題の原因等のつながりを見付けることを通して課題の全体像を総合的に捉える力
IV 公平性 世界の問題を解決するためには、基本的な人権の保障など、地域や世代を越えて、公平・公正・平等であることが大切であることを理解すること	4 コミュニケーションを行う力 グループの中で世界の問題についての自分の考えや思いを伝え、友達の考えも尊重し、積極的にコミュニケーションをとりながら、その解決方法をまとめることができる力
V 連携性 世界の問題を解決するために様々な人々が協力・連携して取り組んでいることを知り、自身でも社会や地域の一員として協力・連携して行動していこうとする思いを抱くこと	7 進んで参加する態度 ・地球に住む一人としての責任を自覚し、世界の問題を解決するために、その方法を考えようとする態度 ・グループの中で自分の役割を理解して主体的に話し合いに参加する態度

5 評価規準

学習過程	評価規準		
	知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【学】
課題設定	ア 世界の中には様々な国があり、様々な暮らし方をしていることを理解している。 (多様性)	ア 世界の問題に関心をもち、自分で課題を設定している。 イ 学習の見通しをもちながら自分なりに学習計画を立てている。 (計画を立てる力)	ア 自分で課題を設定し、探究活動に進んで取り組もうとしている。 (進んで参加する態度) イ 世界の問題を解決するために自分にできることを見付けようとしている。
情報収集	イ 世界で起きている問題について、手段を選択しながら、情報を収集している。	ウ 自分で調べたことと関連させながら話を聞き、国際機関ではどんな取組をしているか理解している。	ウ 進んで調査活動に取り組んでいる。 (進んで参加する態度)
整理・分析	ウ 世界の中で起きている紛争・難民・貧困などの問題が関わり合っていることを理解している。(相互性) エ 世界の問題を解決するために様々な機関が取り組んでいることを理解している。 (連携性)	エ 思考ツール「ステップチャート」を活用して、世界の問題を整理し、共通点や関係性を捉えている。 (多面的、総合的に考える力) オ 思考ツール「未来へのタイムライン」を活用して、実現性や効果などを考慮し、自分たちでできることを考えている。 (多面的、総合的に考える力)	エ 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合っている。 (コミュニケーションを行う力)
まとめ・表現	オ 世界の問題が関わり合っていることの理解は、様々な問題の現状と原因について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	カ 世界の問題について、要点をまとめて、分かりやすく表現している。	オ 友達の意見を取り入れながら、自分の考えをまとめている。(コミュニケーションを行う力)
行動・検証		キ 自分たちの行動を効果や達成状況などから検証している。 (批判的に考える力)	カ 自分の課題を解決するために、進んで行動している。(進んで参加する態度)

6 単元について

(1) 単元観

本単元では、SDGsの1、2、3、4、5、11の目標と関連させて、よりよい未来という側面から持続可能な社会の創造を目指す資質・能力の育成を目指していく。単元の導入では、児童が今まで知らなかった世界の様々な深刻な問題を、いろいろな手法を用いて、共通体験として提示する。そして、それらの問題を解決するために行動していくという単元を貫く大きな学習課題を設定できるようにする。

単元の前半部分では、世界の問題を解決するための行動をしていくために、まずはそれらの問題の原因や背景などについて調べ学習を行う。児童が世界の様々な問題について想起し、学級での話し合いを通して自分の課題を設定して調べ学習を進めていく。そして調べたことをクラスの中で発表する活動を行う。単元の後半部分では、自分たちで調べ学習をして得た知識を基に、世界の問題を解決するために、自分にできることはないか考えさせ、実際に行動し、その行動について評価・検証をしていくという流れで学習活動を進めていく。自分たちにできることを考えていくために、国際機関の方々にゲストティーチャーとして来ていただき、実際にどのような支援を行っているのかについてお話をしていただく時間も設定する。また、自分たちでできることを考えていく際には、一人の力では難しいことも予想されるので、学級やグループでの話し合いを通して考えていくようにする。更に、自身で考えたことが実現可能なのか、ということも行動計画を考えるとときに視点にするように助言をしていく。

単元の最後には、それまでの学習のまとめとして、自分たちの行動の評価・検証を行い、更に、持続可能な社会の担い手としての自身の生き方を考えていけるようにする。

(2) 教材観

世界には貧困や難民など様々な問題が存在する。それらの問題を児童は多少耳にしたことはあると思われるが、その原因や背景などについてはあまり考えたことがない児童が多いと予想される。つまり世界中で起きている様々な問題は、遠い存在であり、決して身近なものではないといえる。小学校最終学年でそれらの問題について改めて考え、調べたり、行動したりすることは、「持続可能な社会を担う児童の育成」という視点で考えると価値のあることであり、必要なことであると考えた。

学習を進める中で、この問題を児童が「自分事」として捉え、調べ、考え、行動していくことが大切なので、自分と同じような年齢の子供たちの生活と比較するところから学習をスタートする。学校に行きたくても行けない子供たちの問題には、貧困や経済格差など様々な原因が存在する。児童は調べ学習を進める中で、様々な問題が実は複雑に関係していることにも気付くはずである。それは持続可能な社会づくりの構成概念「相互性」を学んでいくことといえる。また、学習を通して、「公平性」や「連携性」という概念に触れ、よりよい未来（持続可能な社会）をつくっていくためには、それらが欠かせないということにも気付かせていきたい。

学習の後半では自分でできることを考え行動していく。世界の問題に対して、児童ができることは限られてくるが、一人一人の考え方や行動を変えていくことが、世界の問題の解決にもつながっていくという思いをもたせ、よりよい未来（持続可能な社会をつくる）をつくるという視点で、これからの自己の生き方を考えてほしいと思っている。

7 SDG s との関連

〔関連目標①〕 【貧困をなくそう】

- ・世界の問題の一つとして貧困の問題の原因や背景を調べ、それをなくすためにはどんなことが必要か考えることはターゲット 1.1、1.2 につながっている。

〔関連目標②〕 【飢餓をゼロに】

- ・世界には飢餓の問題が存在し、それらの原因や背景を調べ、それをなくすためにどんなことが必要か考えることはターゲット 2.1 につながっている。

〔関連目標③〕 【すべての人に健康と福祉を】

- ・世界の中で貧困が原因で健康的な生活ができない人々がいるということを知り、そのためにどんなことが必要か考えることはターゲット 3.2 につながっている。

〔関連目標④〕 【質の高い教育をみんなに】

- ・学校に行きたくても行けない子供たちがいることを知り、その問題の原因や背景を調べ、解決するためにどんなことが必要か考えることはターゲット 4.1 につながっている。

〔関連目標⑤〕 【ジェンダー平等を実現しよう】

- ・世界の中には性差による差別が存在し、それらについて調べ、解決しなければならないことだと考えることはターゲット 5.1 につながっている。

〔関連目標⑪〕 【住み続けられるまちづくりを】

- ・世界の中には特定の地域で厳しい暮らしを強いられている人々がいることを知り、それらについて調べ、その原因や背景、解決するために必要なことを考えることはターゲット 11.1 につながっている。

8 他教科等との関連

E S D カレンダー参照

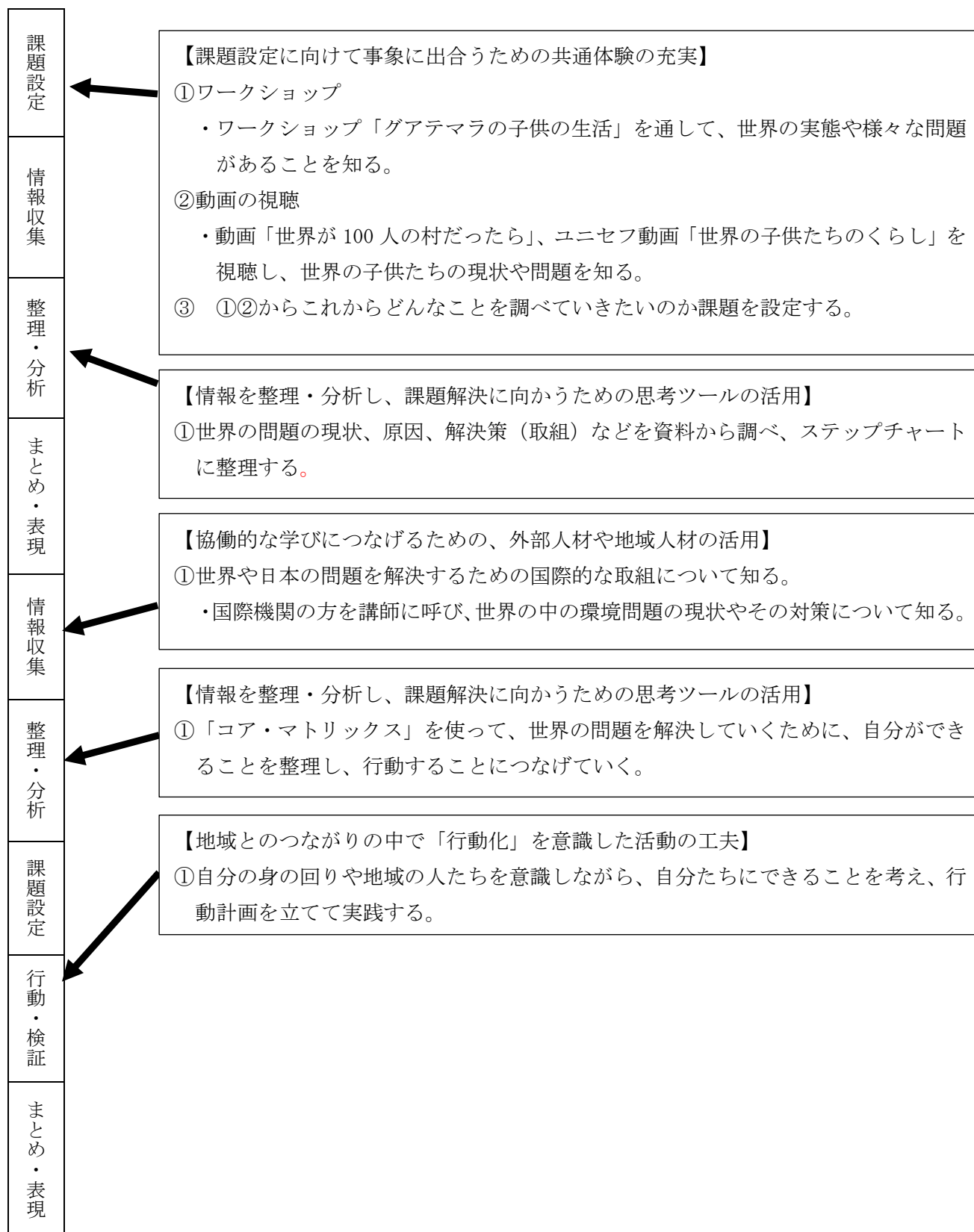
9 児童の実態

本学級の児童は、昨年度の 5 年生で、国連から出された SDG s の 17 の目標を知り、SDG s を国語科、社会科や総合的な学習などで関連付けて学習した。そして、総合的な学習の時間では、「わたしたちの環境を守ろう」をテーマに、世界の環境問題（地球温暖化、ごみ問題、食の問題など）について調べ、それらの問題を解決するために、自分ができることを探し行動した。そして、その行動で、どれだけ二酸化炭素が削減できたり、食品ロスを減少できたりしたかを数値化し、視覚化することで、児童はより自分たちの行動が環境問題に貢献したかを実感した。そして、環境問題をますます身近な問題として捉え、意識を高めてきた。

このような学習の土台を生かして、今年度はより大きな課題に取り組ませたい。今の世界の問題をしっかりと見つめ、これから少しずつ大人になっていく児童がどんな未来を創っていきたいのかを考え、自分たちの手でよりよい未来を目指してほしいと考える。身近になった SDG s の目標を十分に生かしながら、総合的な学習の時間を中心として課題解決的な学習のより一層の充実を図り、児童の課題解決力の向上を図っていくことが必要だと感じている。

10 研究主題に迫るための手だて

- (1) 課題を設定するための価値のある共通体験の充実・自分事になる問いのもたせ方
- (2) 協働的な学習につなげるための、外部人材や地域人材の活用
- (3) 情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用
- (4) 地域とのつながりの中で「行動化」を意識した活動の工夫



11 単元の指導・評価計画

	時	ねらい	○主な学習内容、学習活動	◇評価規準（評価方法）
課題設定	1	・平和ではない世界を考え、話し合うことを通して、世界の問題について関心をもつことができる。	○平和な世の中と平和でない世の中のイメージをもつ。 ○世界にはどんな問題があるか、ウェビングマップを用いて、意見を出し合う。	◇話し合いを通して世界の問題に関心をもっている。 【思ア】 (発言・ワークシート)
	2 本時	・世界の問題や実態を知り、問題意識をもつことができる。	○共通体験としてワークシート「グアテマラの子供の生活」を通して、世界の問題への意識を高める。	◇世界の中には様々な国があり、様々な暮らし方をしていることを理解している。 【知ア】 (発言、ワークシート)
	3	・映像資料を見て、話し合いをする中で世界には様々な問題があることに気付く。	○共通体験として「世界が100人の村だったら」の映像資料を見て、世界の問題について考える。	◇映像資料や話し合いを通して世界には様々な暮らしがあり、その中には問題となることがあることに気付いている。 【知ア】 (発言、ワークシート) ◇世界の問題について知り、それらを解決したいという思いを抱いている。 【学のア】 (発言、ワークシート)
	4 5	・映像資料から世界の問題について改めて考え、自分の課題を設定することができる。	○共通体験として「世界の子供たちの暮らし」の映像を見る。 ○自分が調べたいことを決めて学習計画を立てることができる。 ○自分の課題を決めて、学習計画を立てる。	◇世界の問題に関心をもち、自分の課題を設定している。 【思ア】 (発言・ワークシート) ◇学習の見通しをもちながら自分なりに学習計画を立てている。 【思イ】 (発言・ワークシート)
世界の問題について調べよう				

情報収集	6 7 8	・世界の問題について調べることができる。	○本や資料、インタビューを活用し、現在の状況と問題点、原因について調べる。	◇世界で起きている問題について、手段を選択しながら、情報を収集している。 【知イ】 (学習態度) ◇進んで調査活動に取り組んでいる。【学ウ】 (学習態度・ワークシート)
整理・分析	9	・世界の問題について調べたことを整理して自分の考えをまとめることができる。	○思考ツール「ステップチャート」を使って調べて分かったことを整理する。	◇思考ツール「ステップチャート」を活用して、世界の問題を整理し、共通点や関係性を捉えている。【思エ】 (ワークシート)
まとめ・表現	10 11	・調べたことや自分の考えをまとめ、表現することができる。	○自分で決めた世界の問題の現状、原因、感想をポスターにまとめる。	◇世界の問題について、調べたことや考えたことを、要点をまとめて、分かりやすく表現している。【思カ】 (ポスター)
	12	・調べたことを友達に分かりやすく伝えることができる。	○調べた内容が違うメンバーでグループをつくり、調べたことを発表し合う。 ○発表し合うグループを何回か変えて、全員がクラスの中で上がった世界の問題の現状と原因について理解できるようにする。	◇調べたことを友達に分かりやすく伝えることができる。 【思カ】(発表) (発言、ワークシート) ◇世界の中で起きている紛争・難民・貧困などの問題に関わり合っていることを理解している。【知ウ】 (発言、ワークシート)
	13	・友達の発表を聞き、感じたことや考えたことをまとめる。	○自分が調べたことや友達の発表から、自分たちができることを考える。	◇友達の考えを取り入れながら自分の考えをまとめている。 【学オ】(発言、ワークシート) ◇世界の問題に関わり合っていることの理解は課題に対して探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。【知オ】 (発言、ワークシート)

情報収集	14	・世界の問題を解決するための取組について理解することができる。	○国際機関の方から話をしてもらい世界や日本の問題を解決するための取組について知る。	◇自分で調べたことと関連させながら話を聞き、国際機関でどんな取組をしているか理解している。【思ウ】 (観察・ワークシート)
		世界の課題を解決するためにどんな取組が行われているか調べよう。		
	15	・世界や日本の問題を解決するための取組について理解することができる。	○国際機関の方から話をしてもらい世界や日本の問題を解決するための取組について知る。	◇自分で調べたことと関連させながら話を聞き、国際機関でどんな取組をしているか理解している。【思ウ】 (発言・ワークシート)
整理・分析	16	・世界の問題を解決するためにどんなことができるか考えることができる。	○世界の問題を解決するための取組にはどんなものがあったのかまとめる。 ○同じテーマのグループでこれまでの学習を振り返りながら「未来へのタイムライン」を使って世界の問題の現状、原因、自分たちにできること、の順番で考え、整理していく。	◇世界の問題を解決するために様々な機関が取り組んでいることを理解している。(知エ) (発言・ワークシート) ◇思考ツール「未来へのタイムライン」を活用して実現性や効果などを考慮し、自分たちにできることを考えている。【思オ】 (発言・ワークシート)
課題設定	17	・よりよい未来(平和)をつくるためにどんなことができるか、自分の課題を設定することができる。	○よりよい未来(平和)をつくるという視点で、自分にできることを考える。 ○グループで、自分たちで実現可能かどうかという点から、自分たちでできることを整理して、行動計画を立てる。	◇世界の問題を解決するために自分にできることを見付けようとしている。【学イ】 (ワークシート) ◇自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合っている。【学エ】 (観察、ワークシート)
		「よりよい未来を目指して」自分たちができることを考え、行動しよう。		
行動・検証	18 19 20	・行動計画に沿って準備や実践を行うことができる。	○自分で立てた計画に基づいて、世界の問題を解決するための行動を行う。	◇自分の課題を解決するために、進んで行動している。 【学カ】(観察)
	21 22	・よりよい未来(平和)について考えてきたこと、行動したこと、どんな成果がでたかまとめることができる。	○自分たちでどんな行動をしたかまとめ、表現する。	◇自分たちの行動を効果や達成状況などから検証している。 【思キ】 (発言、ワークシート)

ま と め ・ 表 現	23	• これまでの活動を通してまとめたことを報告することを通して、「よりよい未来を目指して行動すること」について視野を広げ、改めて自分が今できることを考えることができる。	○前時にまとめたことを基に報告会を行う。	◇「よりよい未来を目指して行動すること」について友達の見解を取り入れながら自分の考えをまとめている。 【学力】 (発言、ワークシート)
----------------------------	----	---	----------------------	--

12 本時の指導（2時/23時間）

（1）本時の目標

- ・グアテマラの子供の生活や思いを知り、世界の問題について考えることができる。

（2）本時の展開

時	○主な学習内容 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点、配慮事項 ◇評価規準（評価方法）
導 入	○グアテマラの人々の様子を知る。 ○本時のめあてを確認する。	◆民族衣装（ウィッピル）や数枚の写真を用意する。
	グアテマラの子どもの生活について知り、世界の問題について考えよう。	
展 開	○写真のグアテマラの子どもの紹介文を考える。 （どこで？何をしているか？どんな気持ち？など） ○紹介文を班で考え発表する。 （コミュニケーションを行う力） ○写真の子どもの生活を聞く。 ○グアテマラの子どもの生活を知り、感じたことを書いて発表する。 ・実際に学校に行けない子供がいることを知って、かわいそうだった。 ・なぜ、子供が働かなくてはならないのかと思った。 ・世界には貧困の問題があることが分かった。 ・私たちができないことはないかを考えたいと思う。 ・貧しい子供たちが学校に行けるようにするにはどうしたらよいのか調べたい。 ○グアテマラの社会にある問題に気付き、世界の問題にも目を向ける。（多様性） T「世界には様々な解決しなければいけない問題があるようです。この問題を解決するための世界のみんなの目標がありましたね。」 ○SDGsのロゴを見ながら何番の問題と関係するか確認する。	・紹介文を作らせるときには、必ず「どこで？」「何をしているか？」「どんな気持ち？」を入れさせ、考える観点をしぼらせる。 A クリスティーナ B アレハンドロ C マリア ・個人で考えたことを発表する。 ◆児童の感想から、これからの課題作りにつながるヒントのキーワードを拾って板書する。 「貧困」、「学校に行けない」、「子供が働く」、「わたしたちができること」 ◆グアテマラの問題を通して世界の問題に気付けるように、SDGsと関連させて考えさせる。 ◇世界の中には様々な国があり、様々な暮らし方をしていることを理解し、その上で解決しなければいけない問題があることに気付いている。 【知のア】 （発言、ワークシート）
ま と め	○今日の学習で考えたことを学習シートに書く。 ○学んだことについて、意見を交流する。	

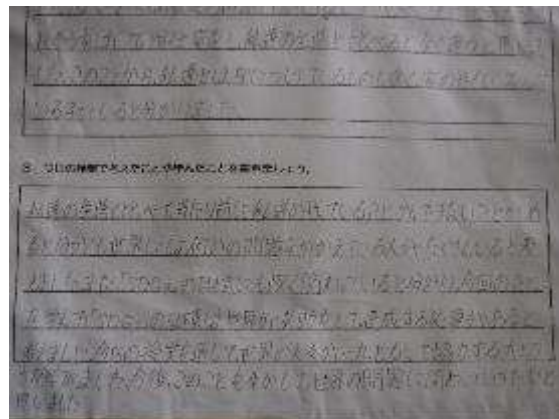
13 本時における想定される児童の姿と支援

	想定される児童の姿	支援
A	世界の中には様々な国があり、様々な暮らし方をしていることを理解し、それと関連させながら問題があることに気付き、それらを自身が未来を担う存在として解決したいという思いをワークシートに書いたり発言したりしている。	SDGs のロゴを提示して、世界で取り組んでいることと、自分たちの行動と関わりがあることを理解させることでさらなる意欲の向上を図る。
B	世界の中には様々な国があり、様々な暮らし方があることや問題があることに気付いてワークシートに書いたり発言したりしている。	・「どうなればいいかな」と問うことで解決しなければいけないという思いが高まるようにする。 ・解決したいという思いの意見を取り上げ、共有することで気付かせていく
C	世界の中には様々な国があり、様々な暮らし方をしていることを理解して気付いたことをワークシートに書いている。	・自分の考えを書くように助言したり、問題だと感じることはないか聞いたりする。 ・日本と違うところはどんなところか聞き、特徴的なことに目を向けられるようにする。

14 学習過程における指導の工夫と児童の変容

(1) 課題設定【課題を設定に向けて事象に出合うための共通体験の充実】

○ワークショップ「グアテマラの子供の生活」の中で自分と同じ年齢の子供たちの生活を考えることで、グアテマラの問題を自分に引き寄せて考えることができた。また、自分の生活と比べて「何か自分でできることをしたい。」という、課題設定につながる考えが生まれた。

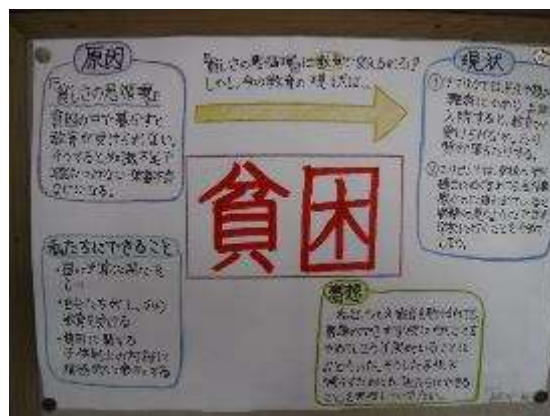


○動画の視聴

「世界が100人の村だったら」「ユニセフ・世界の子供たちの暮らし」を視聴し、世界には様々な国々や問題があり、たくさんの子供たちの暮らしが犠牲になっていることを実感できた。そして、「世界の問題は解決しなければいけない問題だ」という課題設定につながる思いをすべての児童がもつことができた。

(2) 整理・分析【情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用】

○世界の問題の現状、原因、解決策を、思考ツールを活用しながらまとめることで、それらが関わりあっていることがよく理解でき、自分たちの課題解決の道筋が見えてきた。



(3) 情報収集【協働的な学びにつなげるための、外部人材や地域人材の活用】

○ユニセフと国際NGOワールド・ビジョン・ジャパンの方に世界の問題やその取組についてお話を聞くと、自分たちが調べてきたこと以外にも様々な問題があることをよく理解することができた。実際に現地の様子を見てきたり、その中で働いていたりする人の話には切実感があり、児童の心に響いていた。そして様々な取組が行われている現状を知り、自分たちの行動のヒントとすることができた。



(4) 整理・分析②【情報を整理・分析し、課題に迫るための思考ツールの活用】

○ユニセフの活動や国際NGOワールドビジョンジャパンの活動を思考ツール・コアマトリックスを活用して整理してまとめることで、どんな問題があり、その解決のためにそれぞれの機関で行われていることが明確になり、自分たちにはどんなことができるか考えることができた。



(5) 行動・検証【地域や身の周りの人々のつながりの中で「行動化」を意識した活動の工夫】

○世界の問題を解決するために、自分たちにできることを考え、実際に行動した。児童から出てきたことの中で、「周りの人たちに現状を知ってもらう。」「毎年行っているユニセフ募金を自分たちの力で盛り上げる。」ことを実践した。自分たちにできることを、周りの人々を巻き込んで、一緒になって行っていくというイメージで計画を立てた。また、自分たちの行動がどれだけ価値があるものか考え、持続可能かどうかという視点で計画し、実践につなげた。



○自分たちに何ができるか考えました。



○行動化「ユニセフ募金の様子」

15 今後の課題

- ・全員の興味・関心を高めるために指導の工夫をしてきたが、人によって、興味・関心の程度の差があったので、もう少し評価規準を明確にし有効な手だてを考えて学習を進める必要があった。
- ・一見すると世界の問題のために自分たちにできることは、限られているので児童から多様な意見を引き出すことが難しかった。直接的でなくても、自分にできることがあり、それが価値あることだという指導を十分に行うことが必要だと感じた。
- ・この学習において世界の問題を自分事で考え、真剣に「何とかしたい」という思いを持たせることが大切だと思うが、全員にこの思いを持たせることは難しかった。単元の中で、何度かそのような思いを持たせるような時間をとることで学習への意欲を継続していく必要性を感じた。



日時 令和2年10月20日(火)

第6学年 外国語 学習指導案

1 専科分科会 目指す児童像

「課題解決型学習での学びを基に専科の特性に合わせて自ら表現できる子」

2 単元名 「I like my town.」(全6時間)

3 単元の目標

- ・ We have や We can などの構文を使い、日野市の施設、建物、自然などの表し方を知り、聞いたり言ったりすることができる。(知識・技能)
- ・ 日野市にあるものやできることを、聞いたり言ったりすることができる。(思考・判断・表現)
- ・ 外国人に日野市のよさを紹介することに関心をもち、グループで協力しながら地域のおすすめの場所を伝えようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

4 単元におけるESDの視点

持続可能な社会づくりの構成概念	ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度
I 多様性 海外だけでなく、自分たちが住んでいる地域にも多くの外国人が住んでいることを理解すること	3 多面的・総合的に考える力 自分とは異なる立場の人の目線になって、自分たちが住んでいる地域について多面的に分析し考える力
II 相互性 自分たちが住んでいる地域には、様々な国の人々が関わり合いながら暮らしていることを理解すること	4 コミュニケーションを行う力 日野市のおすすめの場所を外国の人に紹介する活動において英語を用いて相手と考えを交流することで、積極的にコミュニケーションをとりながら、相互理解を図る力
IV 公平性 自分たちの地域についてあまりよく知らない人が、よりよく生活できるために、地域のよさを伝えようと考ええること	6 つながりを尊重する態度 日野市には外国の人との関わりがあることや、自分自身とのつながりに気付き、英語でのコミュニケーションを図っていこうとする態度

5 評価規準

学習過程	評価規準		
	知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【主】
課題設定	ア 町にあるものや町でできることの表し方について聞き、表現に慣れ親しむことができる。 イ We を使って、地域を説明する表し方を知り、聞いたと言ったりすることができる。		ア 日野市のよさやそれを外国の方に紹介することに関心を持ち、課題に進んで取り組もうとしている。 (多様性、進んで参加する態度)
情報収集		ア グループの友達と協力しながら日野市のよさを考えたり、伝えたりする。 (多面的、総合的に考える力)	
整理・分析	ウ 基本的な表現を聞き取り、具体的な情報を捉えることができる。	イ We have や We can enjoy 等の構文を正しく理解した上で、日野市のおすすめ紹介シートをグループで作ることができる。 (他者と協力する態度) ウ 既習の疑問文を参考に、相手に配慮した質問を作ることができる。(公平性、多面的、総合的に考える力)	イ グループの友達と協力しながら紹介シートを作成している。 (進んで参加する態度)
行動・検証		エ 相手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。(コミュニケーションを行う力)	ウ 日野市は外国の人と関わっていることや、自分自身とのつながりに気付いている。(相互性、つながりを尊重する態度)

6 単元について

(1) 単元観

本単元では、動名詞を用いた表現や have 等を用いながら、施設や建物、自然を紹介する表現を聞いたり話したりすることを目標としている。目標を達成するために、より身近なテーマ「日野市（自分の町）」を設定することで、児童の興味・関心を高め、意欲的に活動できるようにした。

自分の町のおすすめの場所を紹介するために、紹介する文を書いたりおすすめの方法について説明したりする活動や、他のグループの説明を聞く活動を繰り返し取り入れることにより、自分の思いや考えを表現するための語彙や表現の幅を広げていく。また、SDGs の 11 及び 17 の目標と関連させて、外国語の学習で慣れ親しんだ英語表現を用いてコミュニケーションを行う力の向上を図り、持続可能な社会の創造を目指す資質・能力の育成を目指していく。

(2) 教材観

日野市は、高幡不動尊や百草園といった文化的な施設があるだけでなく、多くの自然にも恵まれており、浅川や多摩川にはカワセミなどの貴重な生き物も生息している。日野市に移住した外国の人にとって、生活しやすいだけでなく、文化的・自然的にも様々な刺激を受けることができる地域である。今回、日野市国際交流協会を通じ、日野市に来て 2 年目のアメリカ合衆国出身の方と交流できることになった。交流相手に配慮しながら、自分たちが考える日野市のおすすめの場所を “We have ○○ in Hino City.” や “We can enjoy ○○.” を用いて説明することで、日野市のことをもっとよく知りたいと考えている相手と、実際に英語を用いて情報を伝える。このような活動を通して、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことで、英語によるコミュニケーションへの達成感や自信をもたせたい。また、ネイティブ・スピーカーの相手と実際に対話することで、「もっと話してみたい、知ってみたい」という児童の気持ちも伸ばしていきたい。

7 SDGs との関連

〔関連目標⑪〕 【住み続けられるまちづくりを】

- ・自らの地域のよさを広めようと考え、他言語を通じて外国人に説明し、行動につなげていこうとすることはターゲット 11.3 につながっている。

〔関連目標⑰〕 【パートナーシップで目標を達成しよう】

- ・英語でコミュニケーションを図ることを通して、自分も世界とつながることができることに気づき、互いの違いや個性に対し、理解を深めることはターゲット 17.17 につながっている。

8 他教科等との関連

E S D カレンダー参照

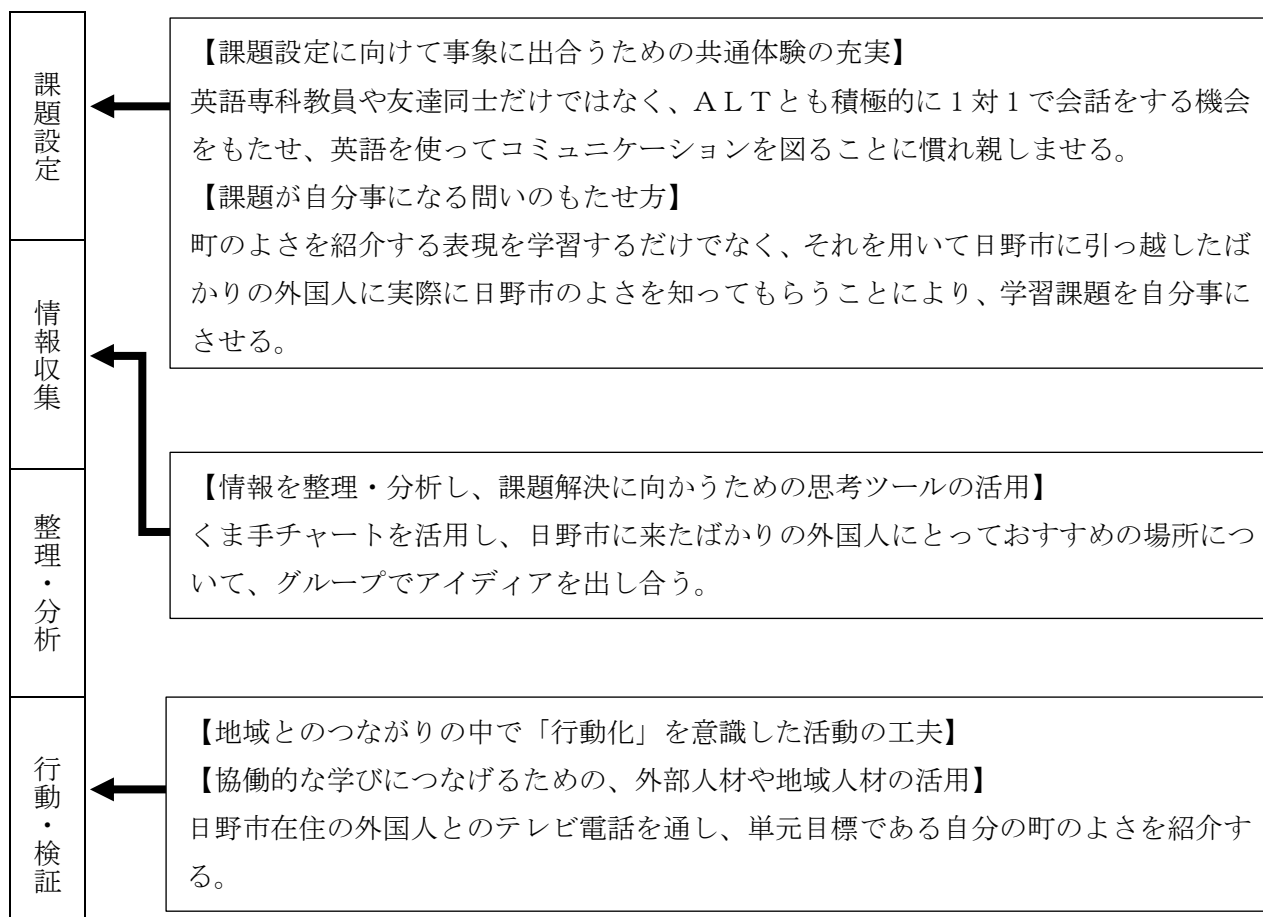
9 児童の実態

本学級の児童は外国語での活動に積極的に参加し、恥ずかしがらずに友達同士で活発に発話を行うことができる。児童の中には英語検定に挑戦している児童も数名おり、「聞くこと」や「話すこと」に必要な音声と意味との関連付けだけでなく、例文を参考に自分のことや身近で簡単な事柄について書いたり、文字を識別しその読み方を発音できたりする等、「書くこと」や「読むこと」で必要とされる音と文字との関係をよく理解している児童も多い。しかしながら、ALT以外のネイティブ・スピーカーとのコミュニケーションの機会があまりないため、自分たちの英語に不安を感じる児童もいる。その課題を解決するために、教室に掲示物を設け、既習表現を目にしながらか安心して対話できるように工夫したり、毎時間リスニング問題を導入したりしている。また、指導者と1対1で対話をする時間を各学期1回以上設ける、ALTと児童をペアにさせて活動する機会を増やすなどの工夫をしている。今回実際にネイティブ・スピーカーと話す機会を設け、自分の発話が相手に通じることを実感させ、価値付けすることにより、対話のために必要な英語を学習していくことの必要性だけでなく、意欲的に英語でコミュニケーションすることに対し、自信をもたせたい。

あわせて、本学級の児童は、生活科や総合的な学習の時間で、低学年では地域の自然や施設、中学年では日野市全体の環境、高学年では環境問題や平和や人権について学習してきた。また、人・自然・社会とのつながりの中で、よい部分だけでなく、それらに潜む課題についても目を向け、解決しようとする素地を系統的に養ってきた。今回の単元において初めて日本語以外のツールを用いて地域について発信することにより、まとめ・表現の方法の一つとして英語もあり、英語を活用することで発信の対象も国際的に大きく広がることを実感させたい。

10 研究主題に迫るための手だて

- (1) 課題を設定するための価値のある共通体験の充実・自分事になる問いのもたせ方
- (2) 協働的な学習につなげるための、外部人材や地域人材の活用
- (3) 情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用
- (4) 地域とのつながりの中で「行動化」を意識した活動の工夫



11 単元の指導・評価計画

	時	ねらい	○主な学習内容、学習活動	◇評価規準（評価方法）
課題設定	1	・町のよさを表す表現や日本と海外の違いについて関心をもつことができる。	○映像を通して、町のよさを表す表現を知る。 ○日本と海外の地図記号の違いについて考える。	◇町にあるものや町でできることを表す表現に慣れ親しむことができる。【知ア】（発話・ワークシート）
	2	・日野市を紹介する表現に慣れ親しむことができる。	○町を紹介する表現について聞き、表現のしかたを学ぶ。 ○日野市のおすすめの場所について発表をするという単元のゴールを知る。	◇ We を使って、地域を説明する表し方を知って、聞いたり言ったりすることができる。 【知イ】（発話・観察） ◇日野市のよさやそれを外国の方に紹介することに関心をもち、課題に進んで取り組もうとしている。 【主ア】（発話・観察）
日野市のよさを外国の人に伝えよう。				
情報収集	3	・外国の人に伝える日野市のおすすめの場所をグループで話し合い、決めることができる。	○自分の町に欲しいものを伝える表現について聞き、表現に慣れ親しむ。 ○日野市にあるおすすめ場所について考える。	◇グループの友達と協力しながら日野市のよさを考えたり、伝えたりする。 【思ア】（観察・ワークシート）
整理・分析	4	・日野市のおすすめの場所を紹介する文章や資料をグループで作ることができる。	○日野市にあるおすすめ場所を紹介する文章やポスター、パワーポイントを作成する。	◇ We have や We can enjoy 等の構文を正しく理解し、日野市のおすすめ紹介シートを作ることができる。 【思イ】（観察・ワークシート） ◇グループの友達と協力しながら紹介シートを作成している。【主イ】（発話・観察）
	5	・発表に向けた練習を通して、発話に慣れることができる。 ・外国の人に向けての質問をグループで考え、英語で表現することができる。	○発表に向けてスムーズに話せるように練習する。更に、伝える方法の改善点を見付ける。 ○相手について質問したいことを英語で話したり書いたりする。	◇基本的な表現を聞き取り、具体的な情報を捉えることができる。【知ウ】（発話） ◇既習の疑問文を参考に、相手に配慮した質問を作ることができる。【思ウ】（観察・ワークシート）

行動・検証	6 本時	・相手に配慮しながら、自分たちが住む地域について伝えることができる。	○相手に配慮しながら、日野市について自分の考えを発表する。 ○発表内容やそれぞれの国について尋ね合う。 ○ビデオ交流を通し、思ったこと等を班で交流し合う。	◇声量や抑揚、アイコンタクト等、相手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 【思エ】（発話・観察） ◇日野市は外国の人と関わり合っていることや、自分自身とのつながりに気付いている。 【主ウ】（観察・ワークシート）
-------	---------	--	---	--

12 本時の指導（6時/6時間）

（1）本時の目標

- ・相手に配慮しながら、自分たちが住む地域について、自分の考えを伝えることができる。

（2）本時の展開

時	○主な学習内容 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点、配慮事項 ◇評価規準（評価方法）
導 入	○Greeting あいさつをする。 ○本時で扱う表現について練習をする。 A: What is your favorite place? B: My favorite place is ▲▲. (I like ▲▲.) A: Why? B: We can enjoy ○○. ○本時のめあてを確認する。 自分たちが住む地域について、ローラさんに紹介しよう。	◆既習事項について、正しく言えているか確認する。 ◆発表前に友達同士で英語でコミュニケーションをとる時間を設け、安心させる。
	○本時の流れを確認する。	◆声量や抑揚、アイコンタクトに気を付けながら会話するよう伝える。
展 開	○テレビ電話を接続する。 ○相手の方と挨拶をする。 ○グループ毎に発表する。 【スクリプト例】 ① Hino is ○○. ② We have ○○. ③ We can enjoy ○○. ④ I like ○○. ⑤ ○○ is near ▲▲. ⑥ Please visit there. - ○質問を聞いて、答える。 ○相手の方に質問をする。 【質問例】 ・Do you like ○○? ・What ○○ do you like? ・What is your favorite ○○?	◆パソコンの操作は指導者が行う。 ◆司会児童3名が発表の流れを進める。 ◆相手に内容がより伝わりやすいように資料を提示しながら発表する。
	○テレビ電話を切る。	◆簡単な語句や基本的な表現を用いて相手に配慮しながら意思疎通を図ることが目的であるため、相手の方の英語が理解できない場合、教師が通訳者となる。 ◇相手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。(発話・観察)

まとめ	○振り返りを行う。 ○振り返りシートを書く。 ・ローラさんに日野市のよさが伝わるように話せてよかった。 ・ローラさんと英語だけでコミュニケーションがとれてうれしかった。	◆アイコンタクトや声の大きさ、テンポなど、相手に配慮しながら、英語でコミュニケーションをとることができたか確認する。 ◇日野市は外国の人と関わり合っていることや、自分自身とのつながりに気付いている。(観察・ワークシート)
-----	---	--

13 本時における想定される児童の姿と支援

	想定される児童の姿	支援
A	対話の相手に聞きやすいよう、声量や抑揚、目線に気を付けながら、紹介をしている。相手の言葉に対し、相づちや単語など、自分の知っている範囲の英語で反応している。	・ B、C 評価の児童が発話で困っている際に、単語の読み方や声量などのアドバイスをしてあげるよう、声掛けを行う。
B	相手に聞きやすいよう、声量や抑揚、目線に気を付けながら、発表内容を伝えている。	・ A 評価の児童の反応を意識するよう、声掛けを行う。 ・ 相手の英語が理解できずにコミュニケーションが図れない場合、指導者が発話内容をゆっくり繰り返し、日本語訳を伝える。
C	グループで協力して作成した文章を発話することができる。	・ グループの友達の発表をよく観察し、声の大きさを意識するように伝える。

14 学習過程における指導の工夫と児童の変容

(1) 課題設定【課題設定に向けて事象に出合うための共通体験の充実】

○英語でのコミュニケーションの機会の充実

英語専科や友達同士だけでなく、ALTとも積極的に1対1で会話をする機会をもたせることで、英語を使つてのコミュニケーションに慣れ親しむことができた。また、英語で話してみたい、伝えてみたいという意欲的な気持ちを高められた。



○他教科等での共通体験との関連を図る

紹介するテーマを「自分たちの住む町のよさ」としたことで、生活科や総合的な学習の時間で学習してきた地域の自然や施設、日野市全体の環境など他教科等での共通体験と結び付け、自分の課題を設定することができた。



(2) 情報収集【情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用】

○日野市に来たばかりの外国人の方におすすめた場所を、くま手チャートを活用しながら意見を出し合うことで、課題を解決するための考えをたくさん見付けることができた。

(3) 行動・検証

【地域とのつながりの中で「行動化」を意識した活動の工夫】

○日野市をもっとよく知りたいと考えている相手がいることを知ったことで、日野市は生活しやすいだけでなく、文化的・自然的にも様々な刺激を受けることができる地域であることを相手に伝えたいという意識をもつことができた。また、この活動を通して主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図れたという達成感や自信をもたせることができた。



【協働的な学びにつなげるための、外部人材や地域人材の活用】

○日野市国際交流協会を通じてつながった日野市在住の外国人の方に、英語という日本語以外のツールを用いて地域について発信することにより、まとめ・表現の方法の一つとして英語もあることを実感することができた。また、発信の対象も国際的に大きく広がることを体験することができた。



15 今後の課題

- ・単発的な活動で終わるのではなく今後も交流を深めていき、様々な国の人々とつながり続けていくことが大切と考える。英語というツールを使って伝え合うテーマや相手を広げていくことで、国際理解への興味や意識を深めていきたい。



日時 令和2年7月14日(水)

たちばな学級 総合的な学習の時間 学習指導案

1 たちばな・ステップ分科会 目指す児童像

「人・自然・社会と関わる体験や活動を通して、互いのよさに気づき、楽しむことができる子」

2 単元名 「いろいろな国について知ろう」(全16時間)

3 単元の目標

- ・日本や様々な国の文化にはそれぞれ違いがあるが、どの国の自然・文化・社会もそれぞれ尊重されるべきであると理解することができる。(知識・技能)
- ・友達と協力しながら調べたことをPR動画やワークシートにまとめ、レインボーハウスの留学生たちやALT、他のクラスの友達等に伝える活動を通して、分かりやすく伝えることができる。(思考・判断・表現)
- ・海外の国々に興味をもちその国について調べたり、外国の方々に教えるために日本の文化について調べたりする活動にすすんで取組、友達や自分の成長やよいところに気付くことができる。(主体的に学びに取り組む態度)

4 単元におけるESDの視点

持続可能な社会づくりの構成概念	ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度
I 多様性 世界の中には様々な国があり、日本とは違う多様な自然・文化・社会があると理解すること II 公平性 どの国の自然・文化・社会も平等であり、全ての人の人権や自然・文化・社会がそれぞれ尊重されるべきであると理解すること V 連携性 世界の諸問題を解決していくためには、国と国とが手を取り合い、平和で公正な社会を作っていく必要があると理解し、自分たちのできることを考え行動していこうとする思いをもつこと	3 多面的, 総合的に考える力 ・外国の方に日本の魅力を教えることや、外国の文化を知ることを通して、違う視点に立って考える力 4 コミュニケーションを行う力 ・知らせたい情報を友達や外国の方々に伝えるように話したり書いたりする力 ・場に合った言葉遣いをしようとする力 5 他者と協力する態度 ・友達同士で教え合い協力して発表物を制作したり、成長やよいところを見付けて認め合ったりしようとする態度 7 進んで参加する態度 ・日本や外国の文化について、すすんで調べたり他者に伝えたりしようとする態度

5 単元の評価規準

学習過程	評価規準		
	知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学びに取り組む態度【学】
課題設定	ア 日本には、日本独自のよさがあることや、世界には様々な国があり、多様な自然・文化・社会があることを理解している。(多様性)	ア まず自分たち自身が日本のことを知らないといけないことに気付き、自分なりに課題を設定している。 (多面的, 総合的に考える力)	ア 外国の方に日本の魅力を伝えたいという思いをもち、日本らしさについて考えたり友達の発表を聞いたりしている。(進んで参加する態度)
情報収集	イ 「外国の方に知राせたい日本の魅力」や、興味をもった国々について、様々な媒体により情報を収集している。(多様性)	イ 友達と協力しながら情報を集め、調べたことをワークシートにまとめている。 (コミュニケーションを行う力)	イ 進んで調べ学習に取り組んでいる。 (進んで参加する態度)
整理・分析	ウ 日本や世界の様々な文化のよさについて理解している。(多様性)	ウ 自分や友達が調べたことを情報交換し、話し合いながら取捨選択し、発表内容をしぼり込んでいる。(コミュニケーションを行う力)	ウ 自分や友達のよさを考え、友達の意見も尊重しながら、誰が何をどうやってPR動画で発表するかを話し合っている。(他者と協力する態度)
まとめ・表現	エ 日本や様々な国の文化にはそれぞれ違いがあるが、どの国の自然・文化・社会もそれぞれ尊重されるべきであると理解している。 (公平性)	エ 伝えたい内容を分かりやすくまとめ、友達と協力しながらいろいろな発表形式を用いてPR動画を作ったり、ワークシートに表したりしている。(コミュニケーションを行う力)	エ 自分や友達のよさを認め、その強みを生かしながら、協力して学習している。(他者と協力する態度)
行動・検証	オ 平和で公正な社会を作るために、自分たちのできることを考え行動していこうとする思いをもっている。 (連携性)	オ 学んだことを基に、募金活動を行うなど、自分たちのできることを考えて行動している。(多面的, 総合的に考える力)	オ 自分や友達の成長に気が付き、認めようとしている。 (他者と協力する態度)

6 単元について

(1) 単元観

本単元は、大単元「見付けよう 自分のいいところ」の中の一単元と位置付ける。他の総合的な学習の時間及び生活単元学習の「みさわマイスターになろう」、「身近なしごとを調べよう」、「いろいろな人とかかわろう」、「たちばな商店街」等の単元でも、共通したテーマ「見付けよう 自分のいいところ」を軸にして貫いていく。本単元では、「レインボーハウス留学生へ日本のPR動画を送ろう」という学習課題を軸に日本の文化を調べ、動画の作成に取り組む。調べたことを分かりやすくまとめるだけでなく、児童一人一人の得意なことや個性に目を向

け、自分のいいところを活かしたPR動画を作成することを目標とする。そのことにより、他者の良さを認め、自分の良さを認識し、単元を通しての自他の成長に目を向けさせたい。また、単元後半では外国人留学生とのPR動画の交流から発展させ、留学生の出身国へと興味を向けさせたい。関わりをもった外国人留学生の出身国を調べることで異文化理解へとつなげていきたい。

「見付けよう 自分のいいところ」に含まれるどの単元でも、活動の振り返りを通して友達やたちばな学級全体の良かったところや成長の記録を積み上げていく。積み上げた活動の振り返りを基に単元ごとの「step up flower」を作成し、自分たちの活動や成長をまとめ振り返るようにしていく。自分たちの成長を「step up flower」として具体化することによって自己肯定感の低い児童であっても、自分の成長やよさにも気付いていけるようにしていきたい。

(2) 教材観

昨年度、レインボーハウスを訪問し、たちばな学級で集めた募金を渡し、外国人留学生に施設を案内してもらって簡単にできる外国の遊びを一緒に楽しむなどの交流を行った。外国人留学生の方と一緒に過ごす時間を子どもたちは楽しんだが、互いにコミュニケーションを取ったり文化の違いを理解したりするなどの活動が不十分だった。そのため今年度は、「いろいろな国について知ろう」の学習の中に日本の文化を調べ、PR動画を作成し外国人留学生へ伝える活動を設定した。

異文化交流や異文化理解をする上でまずは、日本の特色を捉え日本のよさを知る必要があると考えた。そこで、単元の前半に日本文化を調べPR動画の作成に取り組む活動を取り入れる。PR動画を作成するにあたって、調べたことをまとめ発表するだけでなく、児童の得意なことや魅力を生かした発表内容を意識しながら話し合いをすすめていく。自分の得意なことや魅力に目を向けながら、PR動画を作成することで友達のよさを認めたり、自分のよさを認識したりすることへとつなげていく。PR動画の作成を通して「自分たちの良さを生かすことによって相手へ自分たちの思いが伝わった」という経験をさせることにより自己肯定感を高め達成感を味わわせることへつなげると考える。

単元の後半では、外国人留学生の出身国を取り上げ、諸外国の国旗や文化、国の特色などについて調べ活動をする。PR動画を見てもらった外国人留学生の出身国を取り上げることで、興味・関心を引き出し、日本の文化理解から諸外国の文化や国の特徴へと視野を広げ異文化理解へとつなげていきたい。また、自国の発展のために留学しているという留学生の背景にも目を向けることで、SDGsの1、10、16を意識させるきっかけづくりとしていきたい。

7 SDGsとの関連

[関連目標①]【貧困をなくそう】

- ・世界には貧困に苦しむ人や、社会的・経済的に弱い立場にある人が多く存在することを知り、貧困をなくすためにいろいろな国が協力する必要があると理解することは、ターゲット 1.1、1.2 につながっている。

[関連目標⑩]【人や国の不平等をなくそう】

- ・同じ国の中や、国と国との間に不平等があることを知り、それらを改める必要があると理解することは、ターゲット 10.2 につながっている。

〔関連目標⑩〕【平和と公正をすべての人に】

- ・世界には、争いごとに巻き込まれたり家族を失ったりするなど辛い思いをしている人々もいることを知り、全ての人が安心して暮らせる公平な社会を作るために自分たちができることを考えていくことは、ターゲット 16. 10 および 16. a につながっている。

〔関連目標⑪〕【パートナーシップで目標を達成しよう】

- ・自分や友達のよさに気づき、お互いを認め合うことや、外国の方々との交流等いろいろな人との関わりを体験し、コミュニケーションのよさを感じ取ることは、ターゲット 17. 17 につながっている。

8 他教科等との関連

E S D カレンダー参照

9 児童の実態

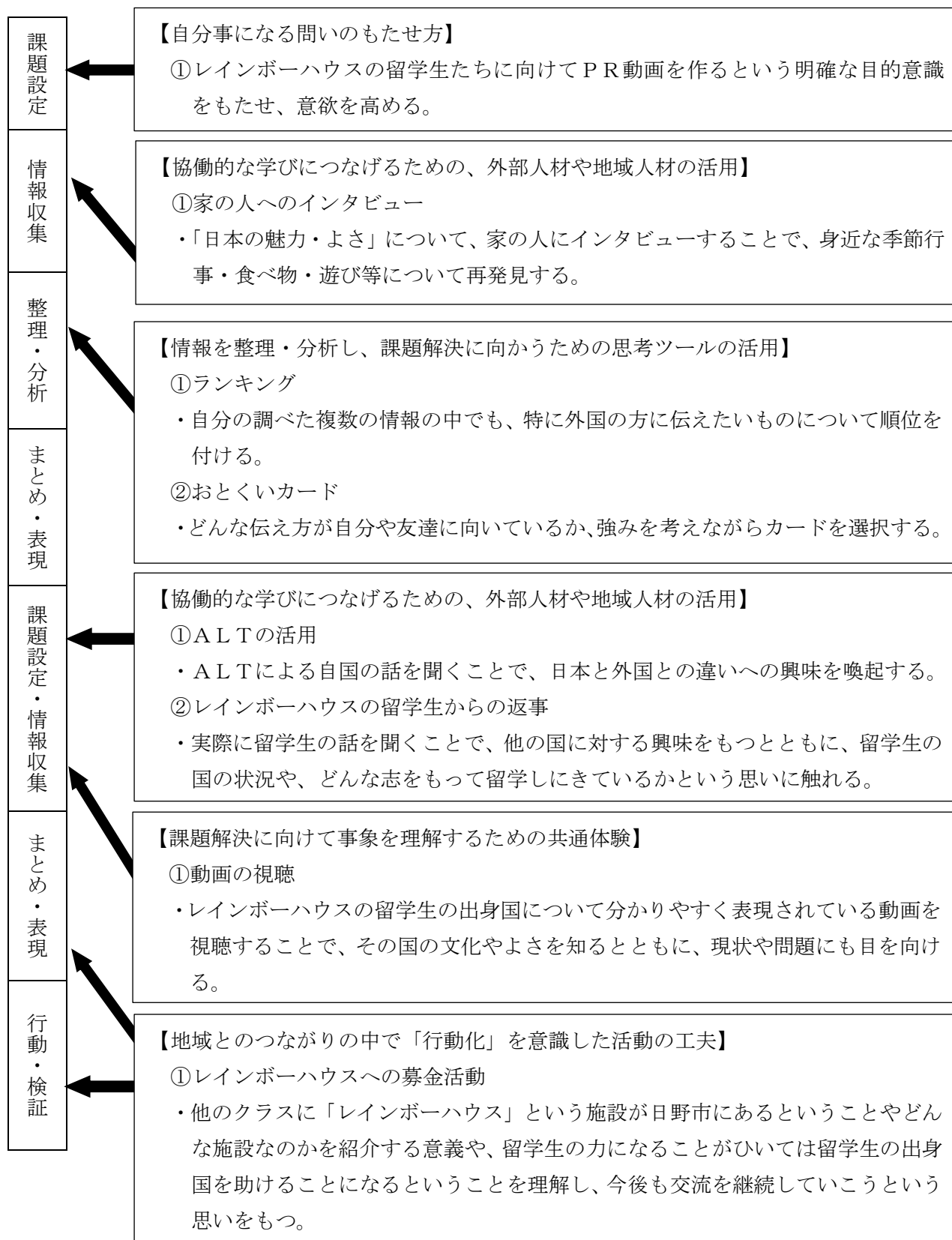
総合的な学習の時間として、「いろいろな国について知ろう」の学習を行っているグループは、第3学年4名、第4学年5名、第5学年4名、第6学年3名、合計16名の児童で構成されている。学習の見通しをもち、自分たちのすることが明確になると、意欲的に活動することができる反面、自分で疑問に思うことを調べたり、疑問に思うことを質問したりすることなど、主体的に活動することに対して課題が見られる。第1回アンケートの結果では、「持続可能な社会を作るために、社会の役に立ちたい」73ポイント、「他の人と協力して、持続可能な社会をつくっていききたい」80ポイントと、人の役に立ちたい思いが強いことが分かった。その反面、「授業の中で学んだことをいくつかつなぎ合わせて、自分なりの考えを持つことができている」60ポイント、「自分たちの行動は、地球の課題を解決することにつながっている」53ポイントと、他の項目よりも低い値となっていた。

アンケートの結果より、人の役に立ちたいという思いは強いが、自分の考えをもち、人の意見を聞いて考えを深めることについて十分とは言えない。また、自分たちが行っている身近な行動と地球規模の大きな課題とをつなげて考える力が十分ではないといえる。そのため、SDGsとは何かということをまず身近な事柄とつなぎ合わせて考え、自分たちのちょっとした行動が課題解決につながるという意識を高めたい。「自分たちは人の役に立つことができる」という思いをもたせることで、将来的には就労への意欲にもつながると考える。しかしながら現時点で、体験とスキルが十分結び付いているわけではないという課題がある。教師が与えた課題に沿って学習を進めるのではなく、相手を意識しながら調べた情報をまとめ自分たちの得意なことや良さを生かしながら情報を発信する経験をさせたい。また、情報を発信した相手からの返信を子どもたちに伝え、「自分たちの良さを生かすことによって相手へ自分たちの思いが伝わった」という経験をさせ、自己肯定感を高め達成感をもたせたい。

また、なるべく児童にとって条件が整えられた学習に取り組むのではなく、児童自身がどんな学習を進めていきたいかという思いを汲みながら、本単元の学習を進めていきたいと考える。自分の思いを表出すること自体に苦手意識をもつ児童もあり、指示を待っているという実態もまだ見られる。そこで、主担当ではない教師が各班のファシリテーターとして参加し話し合いの支援を行う。自分たちで話し合い、思いを交流し合いながら主体的に活動に取り組んでいくようにしていきたい。

10 研究主題に迫るための手だて

- (1) 課題を設定するための価値のある共通体験の充実・自分事になる問いのもたせ方
- (2) 協働的な学習につなげるための、外部人材や地域人材の活用
- (3) 情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用
- (4) 地域とのつながりの中で「行動化」を意識した活動の工夫



11 単元の指導・評価計画

	時	ねらい	○主な学習内容、学習活動	◇評価規準(評価方法)
課題設定	1	・「日本の魅力」、「日本らしさ」とは何かを話し合い、どんなことをレインボーハウスの留学生たちに伝えたいかを考えることができる。	○「日本の魅力」、「日本らしさ」について思い付いたことを出し合い、どんなことをPR動画を通して伝えたいかを話し合う。 ○まず自分たち自身が日本のことを知らないといけないことに気付く。	◇外国の方に日本の魅力を伝えたいという思いをもち、日本らしさについて考えたり友達の発表を聞いたりしている。 【学ア】(発言・行動観察) ◇まず自分たち自身が日本のことを知らないといけないことに気付く、自分なりに課題を設定している。【思ア】(発言・行動観察)
		りゅうがくせいさんたちに 日本のことをおしえよう。		
情報収集	2 3	・グループの中で日本の文化・遊び・生活などなことを調べたいかカテゴリーを決めて、本やインターネット、家の人に聞く等で調べることができる。	○外国の人に教えたいと思うような「日本の魅力」「日本らしさ」について調べ、ワークシートにメモする。	◇外国の方に知らせたい日本の魅力について、友達と協力して様々な媒体により情報を収集している。【知イ】【思イ】(ワークシート・観察) ◇進んで調べ学習に取り組んでいる。【学イ】(ワークシート・観察)
情報の整理・分析	4	・調べた情報をグループの中で共有し、自分が調べた情報の中で特にPR動画に入りたい内容をしぼり込むことができる。	○グループ内で集めてきた情報を発表し合い、その中でも特にPR動画に特に入りたい内容を「ランキング」で決める。	◇自分や友達が調べたことを情報交換し、話し合いながら取捨選択し、発表内容をしぼり込んでいる。【思ウ】(ワークシート・発言・観察)
	5 (本時)	・自分たちの良さを生かし、誰が何をどんな方法で伝えるかを話し合って決めることができる。	○「おとくいカード」を活用し、自分たちに合った方法を用いながら、誰が何を伝えるかを決める。	◇自分や友達のよさを考え、友達の意見も尊重しながら、誰が何をどうやってPR動画で発表するかを話し合っている。 【学ウ】(話し合いボード・発言・観察)

まとめ・表現	6 7	- 調べたことをまとめてPR動画の原稿を作ることができる。 - 自分たちの良さを生かした表現方法を用いながら伝える練習をすることができる。	○調べたことを基にPR動画の原稿や発表に使う物を作り、練習する。	◇自分や友達のよさを認め、その強みを生かしながら、協力して学習している。【学エ】 (ワークシート・発言・観察)
	8 9	- 自分たちの良さを生かしているか考えながらアドバイスをすることができる。 - 自分たちの良さを生かし、調べたことを分かりやすく伝えるPR動画を作ることができる。	○他のグループと発表を聞き合い、アドバイスをし合う。 ○アドバイスを基に発表の練習をし、グループごとにPR動画を作る。	◇伝えたい内容を分かりやすくまとめ、いろいろな発表形式を用いてPR動画を作っている。 【思エ】 (ワークシート・発言・観察)
	10	調べたことをALTに伝えたり、外国のことを教えてもらったりすることができる。	○調べたことをALTに伝えたり、外国のことを教えてもらったりすることができる。	◇調べた内容を分かりやすくまとめて発表している。【思エ】 (発言・観察)
課題設定	11	留学生達がどんな志をもって留学しに来ているのかという思いに触れることができる。	○レインボーハウスの留学生からの返事を基に、どの国について調べるか決めることができる。	◇日本には、日本独自のよさがあることや、世界には様々な国があり、多様な自然・文化・社会があることを理解している。 【知ア】 (発言・観察)
		りゅうがくせいさんたちの 国のことを しらべよう。		
情報収集・整理・分析	12	興味をもった国について調べることができる。	○レインボーハウスの留学生の出身国を中心に調べる。	◇世界には様々な国があり、日本とは違う多様な自然・文化・社会があると理解している。 【知ウ】 (ワークシート・発言・観察)

まとめ・表現	13 14	・いろいろな国について興味をもち、調べたことをワークシートにまとめることができる。 ・留学生たちは苦勞しながらも自国の発展に寄与しようと勉学に励んでいることを知り、自分たちにできることはないかと考えることができる。	○学習して分かったことをまとめ、学級内で発表し合う。 ○自分たちにできることはないか話し合う。	◇日本や様々な国の文化にはそれぞれ違いがあるが、どの国の自然・文化・社会もそれぞれ尊重されるべきであると理解している。【知のエ】 (ワークシート・発言・観察)
行動・検証	15 16	・留学生を助けることはその国の発展、ひいては困っている人に役立つことだと気付くことができる。	○他のクラスにレインボーハウスという施設や留学生について知らせ、募金活動を行う。 ○レインボーハウスへの募金に沿えるための手紙を書く。 ○単元全体を振り返り、自分や友達のよさや成長について考える。	◇学んだことを基に、募金活動を行うなど、自分たちのできることを考えて行動している。 【思のオ】(ワークシート・発言・観察) ◇平和で公正な社会を作るために、自分たちのできることを考え行動している。【知のオ】 ◇自分や友達の成長に気付く、認めようとしている。【学のオ】 (ワークシート・発言・観察)

12 本時の指導（5時/16時間）

（１）本時の目標

- ・自分たちの得意を生かして、日本らしさを外国の人に伝える方法を話し合って決めることができる。

（２）展開

時	○主な学習内容 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点、配慮事項 ◇評価規準（評価方法）
導 入	○前時までの学習を振り返る。	◆視覚的に学習過程を整理して掲示することで、内容を具体的に想起しやすくなるように工夫する。
	○本時のめあてを確認する。	◆めあてを示すことで、本時の達成すべき目標を児童に分かりやすく説明する。
	とくいをいかした日本らしさのつたえかたをはなしあおう。	
	○学習の流れを示す。	◆視覚的に示すことで、学習の見通しを児童が把握しやすくなるように工夫する。
	1. はなしあいタイム 2. はっぴょうタイム 3. ふりかえり 4. つぎのがくしゅうのこと	
展 開	○班ごとに得意を生かしたPR動画（3分）での伝え方を話し合う。【はなしあいタイム】（コミュニケーションを行う力） ☆話し合い活動 ・「なにを」「だれが」「どうやって」伝えるかを中心として考える。 ・「おとくいカード」を活用して、伝える方法を班で話し合って決める。 ・具体的な発表形式を考え、イメージを固める。 ・「ぼくは、剣道を習っているからお手本ができるよ！」【うごきカード】 ・「どんなスポーツか説明が必要だから、私が言葉で説明するよ！」【ことばカード】 ・「〇〇さんは、どれならできそう？」 ・「これならできそうかな。」 ・「じゃあ、わたしといっしょにやろう！」	◆児童が「おとくいカード」を適切に活用し選択できるように、主担当ではない教師が各班のファシリテーターとして参加し話し合いの支援を行う。 ◆主担当の教師は、各班の話し合いの様子を観察し、主担当ではない教師と連携しながら全体や班、個々など適宜助言や指導を行う。 ◆話し合い活動は、児童が主体的に活動に参加できるように配慮しながら、個々の児童の実態に応じた班ごとの支援を工夫して行う。 ◆児童同士の距離や間隔を適切に確保し、安心な話し合いの場を設定し感染症対策を行う。 ◆発言が苦手な子への対応として、児童同士で助け合わせたり、言語化以外の発表の仕方を見学と相談したりするなどして、主担当の教師と主担当ではない教師が連携して適切な支援を工夫する。

	【ことばカード】 ・「ぼくは、〇〇を工作でつくってみるよ！」 【こうさくカード】 〇班ごとに話し合った内容を発表し、学級全体で共有する。	◇自分や友達のよさを考え、友達の意見も尊重しながら、誰が何をどうやってPR動画で発表するかを話し合っている。（話し合いボード・観察・発言） ◆児童の説明が不十分な場合は、教師が具体的に質問したり、言葉を補ったりしながら相手に伝わるように支援を工夫する。
まとめ	〇本時の活動や取組を全体で振り返る。 〇次時の学習について知り、今後の見通しや意欲をもつ。	◆主担当の教師と主担当でない教師が連携して、児童の話し合いの様子を共有し、めあてと関連付けながら適切に評価できるように工夫する。

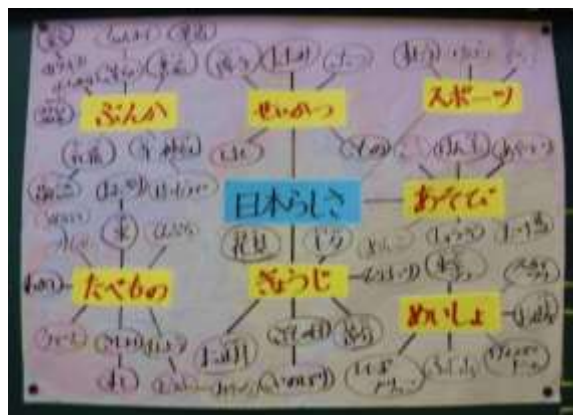
13 本時における想定される児童の姿と支援

	想定される児童の姿	支援
A	自分や友達のよさを考え、友達の意見も尊重しながら、誰が何をどうやってPR動画で発表するかを話し合っている。	話し合いボードを活用し、班のメンバーそれぞれの意見を擦り合わせ、自分や友達のよさを生かしながら発表方法を考え話し合いをまとめられるように 主担当でない教師 がファシリテートする。
B	自分のよさを考え、誰が何をどうやってPR動画で発表するかを話し合っている。	おとくいカードや調べたことをメモしたワークシートを参照させ、自分の伝えたい内容や、得意を生かした発表方法を選べるように、各班についている主担当でない教師が助言する。また、友達のよさにも目を向けさせ、友達の意見も受け入れられるように主担当でない教師が助言する。
C	自分がPR動画でどんな内容・どんな方法で発表したいかを決定している。	調べたことをメモしたワークシートのランキングを手掛かりに、自分が一番伝えたい内容を発言できるように 主担当でない教師が助言する。また、おとくいカードの中から、児童の得意そうなものを主担当でない教師が勧める。

14 学習過程における指導の工夫と児童の変容

(1) 課題設定【自分事になる問いのもたせ方】

○たちばな学級で毎年行っているレインボーハウスとの交流を基に、児童の発言から新たに「やってみたい」という思いを引き出し、「日本のPR動画を撮影して外国の人たちに日本のよさを教えたい。」という学習課題を児童主体で設定できたことで学習活動への意欲や興味・関心を高めることができた。その際に、日本らしさについて考え、子供たちの考えを共有するためのツールとしてウェビングマップを活用し、分類構成をしながら情報を整理することで、児童がより活動の見通しをもって学習に取り組むことができた。



(2) 情報収集【協働的な学びにつなげるための、外部人材や地域人材の活用】

○日本らしさについて調べる際に、児童がより身近に感じる生活経験を有効的に活用することで、児童が想像したり理解したりしやすい情報を精査して収集することができた。その際に、家族から教わる自分の生活体験の想起や家族の生活体験を聞くなどすることで、より様々な情報を収集することができた。自分の習い事を生活経験として結び付けて発表することができる児童の様子も見られた。



○PR動画作成の例示として、教師が模範となりそれぞれの出身地を様々な手法を活用して紹介した。日頃から身近に過ごす教師からの紹介を聞くことでとても関心が高まり、PR動画作成の意欲や児童の発想の閃きにもつながった。また、絵や写真を使う手法や、実物や模型での紹介、話し言葉の工夫などを例示として示すことで児童がPR動画を作成するに当たってのイメージを多くもつことができ、「〇〇が得意だからそれを生かしたい。」といった声が児童からたくさん挙げられた。



(3) 整理・分析【情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用】

○友達と意見交換をする際に、自分が特に紹介したい事柄をランキングにし、整理してから話し合わせることで、児童の思いを強調させながらグループでの話し合い活動を充実させて行うことができた。

○情報・分析の際に、主担当でない教師がホワイトボードを活用して話し合った内容を整理してまとめていくことで、児童にとって視覚的に情報を読み取りやすくなりとても分かりやすかった。

○児童の得意なことを引き出し、表現できるように促すために、「おとくいカード」を作成して活用した。話し合いを進める際に、児童が自分の意見を表現しやすく、形に残せるためとても分かりやすかった。また、話し合うことで考えが変わっても簡単に操作し直せる点においても活用しやすかった。普段はなかなか意見が言えない児童も、「おとくいカード」があることでですすんで自分の気持ちや意見を表現することができた。友達同士の関わりでも、カードがあることで「これやってみたら？」と児童同士でアドバイスし合う環境もできていた。

○各グループに主担当でない教師が入り、話し合い活動をファシリテートすることで、児童主体に話し合うための支援を行うことができた。主担当でない教師の声掛けによって児童の言動にも変化が見られるようになった。



15 今後の課題

本単元は、「いろいろな国について知る」ことに主題を置いたが、児童の身近な事柄から課題設定をしていったので、日本の良さを伝える活動の方が中心となってしまう、単元の中核に迫りづらかった。児童の実態も踏まえながら、本単元の主題に迫れるように今後も継続した学習計画の見直しが必要であるとする。また、今回は新型コロナウイルス感染症拡大の状況下の中で、活動が大きく制限されることもありレインボーハウスに訪問して対面式の交流を行うことができなかった。特別支援学級の児童の実態を考慮すると、直接交流による体験的活動が学びに有効であるとするが、現在の情勢を考えるとこれまで通りの関わり合いが難しい状況にある。これまでの歩みを継続していけるように、オンライン環境を有効に活用した対話的な間接交流などツールの活用方法を模索し、時代の変化とともによい方向へと転換しながら学習が進められるように検討していきたい。

おわりに

副校長 安田 尚民

令和元年、2年度の2年間、本校は東京都教育委員会の「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」の指定を受け、研究に取り組んできました。持続可能な社会づくりに向け、自然環境や地域・地球規模等の諸課題について、児童一人一人が自らの課題として考え、解決していくための能力や態度の育成を図る、という目的を追究するために、若手もベテランも新しい用語について調べ、文献を読み、議論しながら、手探りで勉強し理解を深めていきました。先行研究を参考にしながら育むべき資質や能力を焦点化し、リアリティのある課題解決の力を培う学習を追究しました。年間指導計画や校内環境に意図をもって改変を加え、育てたい児童の具体的な姿を、学校教育目標の目指す姿と重ね合わせていく作業は、教職員の結束を高め、授業の目に見える改善につながっていきました。この2年間のうちには、新型コロナウイルス感染症の猛威が世界中で吹き荒れ、人類はこれまでの日常を見直さざるを得ない岐路に立たされました。「持続可能な社会づくり」が今ほど求められているときは無いのかもしれませんが。この2年間の取組を今後も持続的に発展させ、未来を担う子供たちの育成に対する責任を自覚しながら、進めていきます。最後になりましたが、本研究を進めるに当たって、御指導、御助言を賜りました講師の先生方には、懇切丁寧な御指導をいただきました。そして様々な場面で支えてくださった日野市教育委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

【御指導いただいた先生方】 ※五十音順に示しています。

明星大学教育学部	教育学部教育学科	特 任 教 授	阿 閉 暢 子 先生
足立区立北鹿浜小学校		副 校 長	新 井 雅 晶 先生
東京都教育庁指導部指導企画課		指 導 主 事	飯 田 浩 行 先生
羽村市立松林小学校		副 校 長	岡 元 大 輔 先生
		写 真 家	長 倉 洋 海 氏
多摩教育事務所	教育専門員		辻 泰 成 先生
外務省地球規模課題総括課	経済協力専門員		照 屋 友 紀 様
多摩教育事務所	指 導 主 事		嶺 井 勇 哉 先生

【研究に携わった教員】◎…主幹教諭 ○…研究推進委員会

	校 長 松 永 式 子		副 校 長 安 田 尚 民	
1 年	梅 田 悠 佑	○有 水 洋 一	岐 津 朝 美	
2 年	◎生 田 誠	牛 島 由 美 子	○吉 田 美 津 穂	岡 山 雅 也
3 年	後 藤 藍 子	◎○萩 原 農	真 野 尚 人	
4 年	○大 代 卓	森 田 捺 美	金 森 菜 緒	根 本 翠
5 年	井 川 龍 人	市 川 希	○藤 田 紗 彩	
6 年	○指 田 彰	鈴 木 明 子	黒 地 晃 一	
たちばな	湯 田 正 樹	○唐 橋 恭 子	齋 藤 健 介	奥 野 藍
専 科	養護 甲田 志津子	図工 清水谷 宏美	音楽 榊原 明美	英語○洞口 早希
ステップ	御園生 なをみ	○田 中 千 花	○三 島 寛 之	今 井 万 夢
ステップ	本 間 規 子			

(令和元年度)

本原 英俊 主幹教諭 宇井 幹 主任教諭 高橋 智恵子 教諭 前田 陸 教諭

